特240
722

昭和六年四月

東亞調査會總會報告

東亞調査會

始

43240
722

東亞調査會總會報告

東亞調査會

東亞調査會は昭和五年一月十六日および二月八日の二回に亘り顧問、評議員聯合總會を開き五ヶ條の決議を發表宣布したが、その後の狀況を報告し、名士の時局に關する講演を聽取し、なほ當面の問題に就いて討議懇談するため、昭和六年二月十三日東京市麹町區日比谷山水樓において第三回總會を開催した、その狀況を左に報告す。

出席者（順序不同）

來賓　外務政務次官永井柳太郎氏、外務省情報部長白鳥敏夫氏、外務省亞細亞局長谷正之氏

顧問　伯爵清浦奎吾閣下、伯爵内田康哉閣下

評議員　男爵藤村義朗閣下、阪西利八郎氏、内田嘉吉氏、武藤山治氏、白岩龍平氏、上田恭輔氏
周實氏、高石眞五郎氏、松内則信氏

役員　會長本山彦一、理事長城戸元亮、專任理事岡崎鴻吉、檜崎觀一、理事竹越與三郎、西村公明、河野三通士、稲原勝治、平川清風、杉山幹、布施勝治、澤村幸夫、羽野秀介、高田元三郎、西野入愛一、三俣淺治郎、囑託古閑次郎、主事丸山幹治、長岡克曉

午後四時開會、劈頭本山會長は起つて

本山會長の挨拶

一寸御挨拶申上げます。今日は皆樣御繁忙のところを、御來會願ひましたところ、幸ひお繰合せ斯く多數お出で下さいましたことは感謝に堪へませぬ。この東亞調査會も、先年皆樣の御援助に依り設立致しまして、昨年第二回の會合を開き、いろ／＼會の意見として發表せられたこともありました。爾來會を開かず打切つたやうな形で、隨分怠慢の次第でありました。今日は幸ひ皆樣の御來會を得ましたので、昨年來の事務の報告を申上げ、なほ御出席の方々のお話も承りたいと思ひます。始めに會の報告をいたします。それから後で、谷亞細亞局長のお話を願ひ、次に本會理事澤村幸夫君（大阪毎日新聞上海支局長）が二年程上海に駐在して居りましたが、この度本會のため、特に歸朝しましたので、最近の支那の事情を御報告申上げることになつて居ります。この席の話は別に新聞に出す積りではありません。まあ内輪の方として遠慮なく立入つたお話も願ひたいと思ひます。若し本會で印刷でもするやうなことがありますれば、その方々に御校閲を願ふ筈でありますから、どうか、そのお積りで何事も表裏のことを願つたら仕合せかと思ひます（拍手）

次いで、橋崎專任理事は次の如き報告を代讀した。

東亞調査會報告書

會長　本山彦一

本會が各顧問、評議員閣下並に諸君の御賛同を得て成立致しましたのは、一昨年六月二十六日のことであります。當時の總理大臣田中男爵（代理）中橋商工大臣を始め官民の方々、及び清浦伯爵その他顧問評議員の方々に御集りを願ひ東京會舘において發會式を擧げ、田中首相、中橋商相、清浦伯爵、内田伯爵各位から御祝辭や激勵の御言葉を戴いたので

ありますが、爾來一年有半、まだ、これと申す重大な仕事も出來て居ないのは遺憾に存ずる次第であります。唯、昨年二月の第一回第二回總會においては各顧問各評議員諸氏の愼重なる御審議に依りまして對支、對露の問題に就いて

五ケ條の決議 を致して居ります。それは御承知の如く

一、支那動亂時における水陸交通確保の件
一、治外法權撤廢に關する件
一、支那の排外排貨に關する件
一、吉會鐵道促成に關する件
一、露領における日本漁業に關する件

（決議文は卷末に掲載す）

等であります。この決議に就いては當時本會を代表して岡博士が濱口總理大臣、幣原外務大臣を歴訪して決議を提出し委曲説明いたし、また、別に町田農相、松田拓相にも決議の一部を提出いたしたのでありますが、何故か、政府では、われわれの決議を喜ばれぬ……餘計な世話をやくなといふ風が見えたのであります。われわれに致しましても、政府には信頼してゐる。しかし、政府と雖もあながち全智全能ではありません、時に

民間の議論に もよく聞き、長を採つて短を補ふ位の雅量はあつてもよからうと思うたのであります。本會はさうした政府の態度に拘らず、この決議……其内吉會鐵道に關する一項は國交を慮つて、本會自身の發意で政府に建議はするが世間には公表せぬといふことに致しました。このことに對しては幣原外相も本會の態度が用意周到だと褒められたさうだが……その吉會鐵道の一項を除いて邦文、英譯、支那譯の三種六千部を印刷して國内は勿論、支那、歐米の各要所要人に頒布してわれわれの意見を傳へ、輿論に問ふ所があつた。

先づ國内では、これは黨派の關係もあり、對外硬、對外軟等觀點の相違もあることであるから一樣には參らぬが一部極端な自由主義論者を除いては賛成者が多かつた樣である。特に

支那在留邦人 は支那問題に當面し利害の關係が深いだけに、よくわれわれの意見を咀嚼してくれて絶對贊成の人も多かつた。中には、こんな事では手緩い、もつと強く出て貰ひたい、一体わが國の對支政策の大本は何處にあるのか、われわれ居留民にはほとんど分らない。田中内閣の時には田中内閣の政策があり、濱口内閣になればまつたく異つた濱口内閣の對支政策があるやうに見えて前後一貫したる國策がないやうだ。これを政友會に聞けば田中外交を謳歌し民政黨に質せば幣原外交を支持するといふ風で、何れに適從してよきや方向に迷ふのである。この一定の方向が定つてゐない對支政策といふ舟に乘つて櫂子の役をつとむる第一線のわれわれは何處に舟を進めてよいか、進めやうがないではないかといふのが、大体支那在留官民の聲である。勿論滿洲方面と揚子江方面とでは若干意見の相違もあるやうだが少數を除けば皆さうである、でこの人達は政黨政派に關係なく

全然獨立不羈 の立場にある東亞調査會の如きが、起つて先づ我國論國策を確立して貰ひたいといふやうな人も少なからずあつた。過褒敢て當らずといふのが普通謙遜の挨拶であるが、われわれとしてもこの位の抱負は持ちたいな持つて居ると云ひたいのであります。支那側では、最初本會が出來た時には新聞紙上で御世辭を並べ朝野の名流を集めた本會の如きは日支國交のために大いによいと歡迎してゐたが、サテこの決議を見ると内容を親切に解剖もせず、また自國の狀態について反省もせず頭から猛烈に反對する新聞紙又は個人が多かつた。私は支那の軍閥や政府や新聞が反對するは當然であらう、そんなものでなく、もつと實業家とか、教育家とか

平民階級の聲 を聞かねば本當のことは分らないと、その方面にも出先の人々をして尋ねさせて見たが、支那人の通性として事大思想が強いので國民黨や軍閥の威張つてゐる下で自己の思ふまゝの事をいふ人が少かつたと見えて大した反響を得なかつた。唯一人、天津特別市社會局の惠爾强といふ人が自分は市の社會局に居て北方支那の商工業に就いては最も詳しく知つて居るから、若し調査の必要があれば盡力しようと手紙を寄越した。英米其他にも約二千部の英譯パンフレットを頒布し英國首相マクドーナルド氏、外相ヘンダーソン氏、ロイドジョージ氏其他知名の士からも何十通といふ謝狀が屆き特に米國の「太平洋關係研究會」からは更に十部の決議書を送つて貰ひたい、費用がかゝれば送金

すると申越し、ロンドンの

國際關係調査會 からも本會の趣旨を贊成し「今後何等かの發表ものがあつた場合は是非送つてほしい」といつて來た。またロンドンの或る東洋研究の一雜誌社からは東亞調査會内の權威ある人に原稿を書いて貰ひたいなど色々の手紙が舞込むなど相當反響があつたと思うて居ります。

ソウして、われわれがこの決議をした後の支那の狀況は如何であつたか、昨年八月樺崎專任理事を南北支那及滿洲に派遣して調査させましたが支那の國情は依然として不安であり、滿洲における

わが國の權益 は著しく支那側の壓迫を受けて居りました。この旅行の報告書は印刷に付して御配布いたしましたから御一覽下さつた方もあると思ひます。其後漸く張學良氏の出兵で南北戰爭は止みましたが、新しく共產黨軍……南京政府では土匪の一種と見て居りますが……大部隊のいはゆる共產黨軍は江西、湖北、湖南、安徽、福建各省の奥地に蟠居してその勢が猖獗であります。また南京政府内にも蔣介石氏と胡漢民氏との衝突から小さいクーデターが行はれ未だ國内安定といへない有樣で交通機關の如きも京漢、津浦二線は安全になりましたが、揚子江の外國船は屢々この共產黨軍や、土匪から砲擊せられ南方の海洋には海賊が横行して居るやうな狀態であります。

治外法權問題 も目鼻がつかぬ上、この問題と密接な關係に立つ居留地問題について、南京政府はわが國に向つて漢口天津等の居留地を返還せよと高飛車的に要求をいたして居ります。また排日排貨も一時屏息したかの如く見えたが、南北戰爭がやんでから、ソロソロ擡頭の模樣があり、王外交部長の如きは「日本が要求を聞かなければ一戰の外なし」と放言したとかせぬとかの問題も起つてゐる。斯樣なことが問題になれば其國政府として一應否認するのは當り前であるが、火のない所には煙が上らぬ例への如く南方支那でも滿洲でも排日の空氣が濃厚である。殊に滿洲における鐵道問題に至つては昨秋來、盛んに論議されて居るやうに、東三省政府はわが滿鐵を包圍攻擊し、その貨客を奪ひ自滅の域に至らしめんと全力を注いで居るかの如く見ゐる。一体、打通線(打虎山通遼間)の開通、吉海線(吉林、海龍間)の敷設等に際してわが國の執つた態度は緩慢極るものであつたと云はねばなりません。それでわれわれは早くから吉會鐵道

（吉林、會寧間）の問題を喧しく云つて昨年の決議もしたのでありますが、當時、政府はわれわれのやつたことをそれほど尊重しなかつた。今日では政府も滿鐵問題の險惡な狀態も分り

吉會鐵道問題 も取急いでゐるやうであるが、その悟り方が遲くはなかつたか。露領に於ける日本漁業の問題も然りで、今日の如き有樣になるのを恐れて、われわれは昨年の二月に政府や當業者に勸告したのであつたが當時世間で問題を等閑視したのか或ひはわれわれの努力が足りなかつたのか、今日に至つて大問題となり幾分狼狽してゐる。斯の如く支那方面も露領漁業問題もわれわれが決議をし、勸說をしたが、一向その形勢は改善してはゐない。たゞにこの方面のみでなく印度においても不安の狀態は除去されてゐない。ロンドンの圓卓會議またはガンヂーと印度總督との會見等で一時的彌縫の策は立つたやうだが、まだ根本的解決には達しない。南洋にはまた南洋の危機が潛んでゐる。一面安南の狀態は如何か、關稅の障壁を高くして日本の商品を排斥してゐる。比律賓は日本人と日本商品を嫌忌してゐる。さうして他面には暹羅の如く瓜哇の如く日本に對して厚意をよせ親善を欲してゐる所があるが此等の國にも色々對內對外の惱みがあつて何等かの變化を求めて居る——附錄本會評議員松內則信氏の視察記參照——更にわが國としては

銀價暴落の爲 對支貿易の前途が甚しく悲觀されて來てゐる。銀の問題たるや獨り支那のみの問題でなく、今や世界的のなやみになつてゐるが、こにかく一番激しく影響をうけるのは銀貨國たる支那と、これと最も巨額の貿易額を有する日本である。銀が三十片を上下してゐる頃は、日本金貨の一圓は支那銀貨の一元に該當し兩國の貿易も順調に行はれたが、今日の如く十三片台を破つて來ては、日本金の一圓は支那の銀二元に當り、同じ品物で二倍の値上りとなるから、日本の商品は支那に流れ込まない。隨つて對支貿易の大不況は免れない數であります。日本今日の不景氣は世界的不景氣の影響であらうが、この銀の暴落も非常に深い關係があります。で、わが國の海外貿易も米國に生糸が行かない、支那に雜貨がはけないとなれば、更に進んで

南洋印度其他 に新販路を開拓せねばならないのであります。いろいろ申上ければ際限がありませんが、これを要するに東亞の形勢は依然として今年も混亂と不安の域を脫しやうとは思はれませぬ。私は本會の發會式に支那を見

よ露西亞を見よと申しましたが今年は更に印度を見よ、南洋を見よと附け加へると共に本會は斯く立派な顧問の方々、評議員の方々の御後援御支持を受けてゐるのでありますから、今年は……別に形式ばつた決議案は提出いたしませんが一層奮つて本會の目的たる調査研究に努めると共に、輿論の喚起に努め、不偏不黨……黨派關係もなく何等各自の利害關係にも累されぬ立場から國民生活を基調として帝國の國是、東亞に關する國論國策の確立に盡力し聊か報公の實を擧げたいと存じて居りますから、皆樣におかれましてもどうか本會のため御鞭撻御指導を賜りその目的の達成に御助力下さらんことを御願ひいたす次第であります。

谷亞細亞局長の講演

谷外務省亞細亞局長は外務當局として見た中國の狀態並に政府が支那問題を取扱ふ心境について、腹藏なき意見を講述せられたるも、若干外交の機微に觸る・點あるため、これを印刷發表することが出來ないので、遺憾ながら本報告から割愛することゝした。これを諒せられよ。

澤村理事の報告演說

私は東京日日、大阪毎日の上海支局長として、約一年九ヶ月間內地を離れてゐますから、內地人の對支觀については、大分疎くなつた點があらうかと危ぶみます。また、支那に居りましても、あまり上海、南京に近く居りますために、廬山の中に在つて廬山の眞面目を知らないといふやうな譏りがあらうかとも思ひます。先きほども南京政府を統一政府だとのお話を承はりましたが、私どものやうに出先にあつて日夕

支那の現狀を 目睹してゐるものにあつては、果して統一された近代國家であるや否や、隨分疑はしいことがあります。また、東京にまゐる途中、何新聞でありましたか、今度南京政府が陸軍少佐以下十二名の教官を日本から招聘することについて、日支親善の現はれ、南京政府の對日好感の一現象だといふ風に報道してゐるのを見ましたが、もし斯る

こゝをも日支親善の徴として數へ得るものでありましたら、南京政府の△△注文、軍器買入れ、蔣介石の日本馬乘用など
も大した日支親善の現れだと申さねばなりません。しかし出先で見てゐますと、親善を裏切るやうな幾多の大きな事實が
あります。それ等の事實と最近の事情について聊か見聞を述べませう。まづ

治外法權問題　であります。英國は現にこの三月十一日からランプソン公使の手で、南京で交渉を始めてゐま
す。米佛二國も前後して始めることになつてゐます。日本はこの問題についてこういふ立場をとり、こういふ方針をもつ
て何時から交渉を始めるか私は存じません。存ぜないでは職責の手前相濟まぬ次第でありますが、前回の關稅協定の交渉
の例から推しましても、全然、非公式交渉によるやうな場合がありまして、極く少數の兩國當事者以外には、利害關係を
有する上海の實業家の巨頭、あるひは曾つて外務省に籍を置いた人でさへ、何等の意見を聽取されることがないばかりか
前後を通じて全く聞知することを得ぬことがあります。重光代理公使、王正廷外交部長と通譯抜きの一騎打さへあつた
さうです。そは兎もあれ、日支の交渉開始が近きにあつて、例の非公式交渉は既に開かれてゐるのではないかといふこと
を考へてゐる私共の同業者もありました。そしてさう信じてゐる人々は、この非公式交渉方法を惡口して『しん猫外交』と
か、春雨の『待合外交』といつてをります。いづれにしても、交渉は近きにあり、あるひは既に開かれてゐます。その治外
法權に關しては、日本人の一部では、今たゝへ治外法權を全廢したところで、實質的には日本人の立場は現在と大した變
りはない。支那にある日本人の生活には大した影響がない。それほどに治外法權の實際は、昔と今とは變遷してゐる。だ
から、名の重大なるに比して實は輕小だといふ或る筋の人もあります。あるひは撤廢して見ても、今日我等の想像するや
うな困つた結果を來さぬかも知れません。けれども、上海にをります三萬人に近い在留邦人は、治外法權の交渉について
全身の神經を　尖がらしてゐます。さうして悲壯な感を抱いてをります。日支間必ず正面衝突をする日が來るも
のと豫期してをります。もし此等の豫想を裏切つて、日支の正面衝突が來なければ、これほど結構なことはないのであり
ますが、全然來ないものとは誰も斷言できません。かれ等は來るべき日が來るものと豫期し且つ日本人の位置、事業に大
なる影響があるものと覺悟してゐます。そのために、各方面の代表者を集めた小なる研究團體を設け、折々意見交換をい

たしてゐるやうな次第です。さらば、治外法權撤廢以前の今日、上海にゐる日本人の地位、事業、生活が滿足であるかと
いふ點について見ますと、それは決して滿足すべき狀態ではありません。上海の地方法院とか、特別法院とかいふものゝ
日本人に對する仕打は、いくらも怪しからぬことがある。既に治外法權などいふものは疾くに
空文に歸して　ゐるのではないかと危惧する程度に達してゐます。昨年、三井の買辨――コムプラドルが澤山な
金を使込んで租界外に逃出したことがあります。その際、これを支那法廷に持出すと、日本の在支會社は悉く支那の法人
たる登記を受けなければ訴訟は受けつけないといつて挑ねつけられました。この問題は、結局、外務省あたりの骨折で有
耶無耶に了つたのですが、三井といふ日本の大會社さへ、今は時として無條約國人の如く脅かされるのです。そしてその
大金を使込んだ買辨は、支那の行政區域の――しかも向うの警備司令の宅に逃込んでゐるらしいとの怪聞さへあつたのは
噂だけでありましても驚くべきことでした。さういふ風に、今日でさへ、日本人の權益は動るぎつゝあるのです。これは
新聞記者も知つてゐて、電報を打たなかつたのですが――上海の共同租界に接近した
支那行政區域　に、ずゐぶん長い年月、二等藝者、くだけて申せば女郎屋を營んでゐる日本人があります。その
女郎屋が、支那の公娼廢止といふことで閉鎖せよとの命令をうけた。今さら閉鎖は困る。日本人は支那の行政に服すること
を必要とせぬ。治外法權を有するといふやうなことで、突つ張れば突つ張り得る道理ですが、性質が性質だけにこう
〳〵向うにゐる日本人自ら直接交渉してカフエといふ名で營業を持續することになつたと聞いてゐます。かういふことが
ありますと、日本人たる權利を拋棄せねばならぬと同時に、その地方の△△あたりに始終賄賂をとられることになりま
す。袖の下を提供せねば仕事はやつて行けなくなります。また、臺灣籍にある日本人で、阿片を吸ふ癖のある人が、總督
府の許可證をもつてゐるのが捕つて、寧波の支那の法廷に持出され、二ヶ月かの刑罰を加へられたことがありました。こ
んなことから見ますと、日本人の治外法權といふものは、すでに失はれてしまつてゐて、名ばかり存在してゐるものとも
見えます。少くとも、わが外務省あたりでは、さういふ方針でやつてゐるのではないかと疑はれるのであります。もう一
つ治外法權に關した噂のやうな事實を申上げる。

蘇州の監獄は　昨年の夏以來、反政府分子で一杯になつてをります。蘇州、杭州と申しますと、支那では最も富裕な地方でありまして、いはゆる魚米財賦の區であります。その監獄が囚人で一杯になつて、この地方では養ひきれなくなりました。その一方、反政府分子の投獄者は殖えるばかりであるため、さう〳〵監獄には彼等に食はせる費用がなくなりました。そこで、監獄の方では、どうもお前たちに腹一杯食はせるわけに行かない、已むを得ぬ次第だから、どうぞ勝手にやつてくれと申し渡しましたので、囚人の中でも金のある奴は贅澤三昧をするが、金のない奴はベコ〳〵のおかゆ腹をかゝへてゐなければならぬことゝなりました。そこに金のある犯罪者の内に、アメリカで副領事をしてゐた高英といふのがゐる。アヘンの密輸入でこの監獄に送られて來たのでありますが、この男は福建の名門に生れた人でもあり、惡才にも長けてをり、また役人をもしてゐたといふ關係で、獄内でも非常に優遇されてゐましたが、果ては獄内に椅子、テーブル、安樂椅子まで持込みまして、食事は毎日贅澤な洋食や支那料理を食ふので、遂にはおかゆ腹を抱へてゐる囚人たちの不平が募り、破獄騒ぎを演出するにいたりました。

支那監獄の現狀　はこの通りです。で、我等の治外法權がなくなつてかゝる監獄に投込まれ、かゝる待遇を受けたら實にたまらないと思ひます。それから、上海でかういふこともあります――日本人は習慣として盆正月に禮物の贈答をしますが、その贈先が租界外であり、贈る人が租界外に住む人である場合は、サイダーの一打、ビールの半打でさへ、運が惡いと支那巡査につかまります。そして途方もない高い税金を拂はせられるのです。さういふわけで、上海に租界があるからといつて、外人たる特權は次第に喪失され、同時に日常生活が安心ならぬといふ有樣です。印花税と申す印紙税も、今は何等怪まれることなくして租界内で取られてゐます。漢口では租界内にまで支那の營業税を及ぼさうとしてゐるやうですが、上海にも間もなくこれに類似した課税問題が起るでせう。上海特別市の市長張群といふ人は、蔣介石の懷刀で、日本にもたび〳〵往來して日本人に交遊も多く、また大の日本通でありますが、この人は市長就任の時以來、『大上海』の計畫をいたしてをります。今の吳淞あたりまで都市を取擴けて、上海を世界的文明都市たらしめんとするのです。單に、それだけのことなら、誠に結構なことで、外國人としても歡迎すべきでありますが、たゞ怪しからぬことは、現在

の共同租界、佛租界を何國の承認をも經ずに特別區の名において、大上海の一地域に編入してゐることです。かういふ點から考へるに、支那人の眼中には、すでに外國租界なく、治外法權もまたないのでありませう。次は

内河航行權及　沿岸航行權の問題であります。今までは揚子江を公海と認めて、外國船の航行も自由であり、その他の外國汽船も一寸立寄つの沿岸にある非開港の武穴、黄石港、安慶などにも、わが日清汽船會社の汽船をはじめ、て荷客の揚げ卸しをしてゐるが、國民政府は、ついこのごろ揚子江を狹水道とする――公海と認めないといふ布告を出しました。狹水道といふのは、わが瀬戸内海と同じで、支那自ら不便なこともありますが、主權回收といふことからは大いに自尊心を滿足せしめるわけです。しかし、外國汽船からいへば、非常な打擊であつて非開港場に立寄ることができなくなるのは無論のことで、支那の内地を起點として揚子江筋を往來してゐる外國船のすべてが行詰ることになります。日清汽船ばかりでなく、かの大連汽船の如きも、上海往來は從前通りであつても、青島寄港ができるか、どうかは危ふまれることになります。少くとも、大連だけでは營業が成立つでせうが、渤海、黄海の沿岸寄港は不自由千萬なことゝなります。しかし、支那側のいふところを聞けば、いはゆる

不平等條約が　存在して、その改訂を行ふべきものが多々あります。例へば、天津條約の五十二條によつてだと記憶しますが、日本の軍艦は支那のどこの港へでも、いつでも入港することができる。そして其の地の官吏から相當な禮遇をうけ、炭と水との供給をうけることができることになつてゐる。然るに一方支那の軍艦が旅順港などに入る場合は、前以て東京駐在公使から日本の外務大臣、内務大臣、海軍大臣の許可を求め、許可の返電のあるを待たねばならぬことになつてゐます。これは日本だけが英國の條約に均霑してゐるので不平等も甚だしいわけであります。で、こんなことは將來まさに改訂さるべきでありませう。現にわが上海駐在の海軍武官は、練習艦隊の上海寄港といふ如き場合は、强ひて條約面に拘泥せず、便宜電話をもつて支那海軍部に知照し、できるだけ彼等の面目を尊重することにいたしてをるやうであります。また必ずしも入港を必要とせぬ沿海の支那内地の港には、わが軍艦を立寄らせないやうに注意をいたしてをります。――蓋し日本は世界の大勢にも順應いたさせねばなりません。けれども順應するによつて支那進出、支那生活が不可

能になりましては、極端に產兒制限でもやらねばならぬことでせう。

以上は、支那の對外關係、對外現狀についての話でありますが、支那の內政はどうかと申しますと

平和統一の實 が乏しいやうであります。國民政府の名は美でありますが、その實は南京政權といふべきで、その威令の行はれるところを正確に申しますと浙江、江蘇、福建あたりに過ぎません。確な筋の情報によりますと、廣西、雲南、貴州、四川、陝西などの支那本部の外邊各省には、反政府的軍事運動が行はれてゐます。四川軍は漢中方面から、河南、陝西を窺ひつゝあります。これは今のところ大した發展はないやうですが、五月五日の國民會議の期日切迫するにつれて、軍事の外、政治的反蔣反南京政府運動も、潛行的に盛んになつて行くでせう。上海は現在西山派、改組派等の策源地でありますが、それ等の反政府派の話をきゝますと、五月五日の國民會議は問題でないとしても、國民政府の手に金がはいることは困る。その金をもつて吾々を壓迫するからだといつてゐます。で、彼等は、支那には現在の南京政府に慊らざるものがあるといふことを外國に知らせる政治運動を起すと申してをります。たゞし、それが如何なる形で現はれるかは存じませんが、まんざら彼等の負けをしみ、强がりばかりではないと吾々は考へてをります。南京政府には中山港および

葫蘆島の修築 とか、江蘇、浙江の自動車路築造とか、いろ〳〵建設事業をやつてゐることも事實であります。しかし、それ等の建設事業を裏切る事實もいくらもあります。政府部內の暗鬪も決してないとは申せません。最近の胡漢民氏逮捕事件の如きは、その現はれの一であります。胡漢民、孫科、戴天仇等の廣東派、儒教派、地主派と蔣介石、宋子文、王正廷等の浙江派、卽ち浙江財閥を中心とする商工派との二つが對立して、銀借款問題がいゝとか、金借款がいゝとか、國民會議では約法を議しては惡いとか、いゝとか、始終ごた〳〵やつてゐます。かういふ狀態の

南京政府相手 にいろ〳〵交涉を進めて行くことは非常に困難なことで、わが外交當事者に對しては、眞に同情に堪へないことも屢々あります。ある外交官は、對支外交が軟弱だと攻擊されるので困る。南京政府がこの上に弱くなれば弱くなるで、國民の人氣取に日本に强く出るだらう。强くなれば强くなるでいよ〳〵日本に突ッかゝつて來るだらう。

。いづれにしても容易でないと、しみ〴〵歎聲を漏らしたといふことも傳聞してをります。實際、支那政局の眞相といふものがよくわかりません。いづれの國にせよ、政治の事情は新聞によつてある程度までは窺へるものでありますが、今日の支那は必ずしもさうとは限りません。今の支那新聞は、記事の全部が、政府の檢閱後に印刷發行されるのでありまして、ロシアの新聞と同じ方法をとつてゐます。卽ち軍事、政治、外交などの

重要な記事は 中央宣傳部から出ます。その他の記事でも、新聞の出來上る時分に中央黨部、情報司、その他官邊の人が來て、いけないものは抹殺させます。で、新聞とは申しましても實は變形の官報です。ところが、こゝに一つの風變りの『小報』といふのがあります。小報といふのは大新聞に對する小新聞の意で、道端で一枚賣りをやつてゐるのですが、その新聞だけには、中央黨部や、官憲の息のかゝつてゐない新聞を見ることができるのです。いはゆる『小報』は卑俗な新聞であり、また極めて原始的な新聞ではありますが、支那の『民氣』なるものを窺ふには却つて見逃せないものです。それ等の新聞を見ますと蔣介石といふ人は隨分不評判、不人氣でありまして、蔣介石、宋子文、孔祥熙などいふ蔣家の一家一門に對しては『生殖器系統』だと惡口をいつてゐます。宋子文に對しては『國舅』だと呼んでゐます。しかし、これも事實の一斷面でありまして、實際、政府部內の人でも蔣介石のやり方を褒める人ばかりではありません。

反蔣派の立場 にある廣東派、西山派、改組派、共產黨、舊馮部下の軍人等、いづれも蔣に滿足してはゐません。奉天派とても或はさうでせう。ついでに申上げますが、唐紹儀といふ如き民國の大元老も、今の南京政府や、蔣介石のやり口に對しては、あまり好感をもつてゐないやうであります。唐は只今上海にをりまして、私はこの人の言について、ある筋から常に聽くことのできる便宜をもつてをり、又私自らも聽き得るのですが、ある時、唐はかういふことを申してをりました——清朝時代は民衆といふ馬を御するのに一本の緩るい手綱で御してゐた。今の國民政府は何本、何十本の手綱をもつて馬を緊縛し、そして騙けさせやうとする。これでは馬も動きやうがない。また清朝時代には、地方の父老者宿を重んじ、民氣の赴くところに注意した。私が曾つて郵傳部次官として北京に居つたころ、時の兩廣總督岑春煊に對し、私の鄕里の父老等が、何かの事で抗命したといふので、彼のために拘禁された事件があつた。で、私は鄕黨の報告に

よつて、この事に關して西太后に上奏すると、時恰も年末の御用納めの最も忙しいころであつたのに拘はらず、西太后は岑春煊に向つて事件の再調査と、父老の釋放を命ぜられたものである。

清朝は專制政府 だが、地方人民の休戚に關念すること斯くの如くであつた。今の國民政府はこれについて少しも意を拂はない。のみならず、やゝもすると土豪劣紳、反革命の惡名をもつて彼等を壓迫する。これでは民心は收攬されない。地方は安んじ得ないと語つたことがありました。——人民に不人氣であり、反對者も多いのでありますから、蔣もまた少しも油斷をせず、廣西派の巨頭李濟琛、西山派の居正、唐生智派の蔣方震などを一昨年來南京城内に監禁してゐます。大赦令を出したとか、釋放したとかいふのは眞ッ赤な嘘で、城内の私宅に見張りをつけてその自由を奪つてゐるのです。これは反蔣派ではありませぬが、蔣介石又は南京政府に對して一敵國をなしてゐる一勢力があります。

卽ち共産軍で あります。楊子江上流の警備から上海に歸つた正確な筋の人々の觀察や、實地を見て來た人の話によりましても、現在の南京政府の金力兵力では、共産軍討伐は思ひもよらぬさうです。現に南京政府が共産軍討伐のために動かしてゐる兵力は、昨年閻錫山、馮玉祥軍討伐に使つた兵力より多いので、少くとも二十個師團に達してゐるやうであります。が、討伐にまゐりました政府軍は、ずつと劣弱な兵數の共産軍に對して攻勢をとつて討伐することが出來ず、政府軍の方が塹壕を掘つてぢつとしやがみこんで籠城してゐるさうです。すると共産軍の方では、大きな立看板のやうなものを討伐軍の方に向けて立て、おれの方にやつて來ないか、おれの方に人間と鐵砲とが一緒に來れば百元支拂ふ、鐵砲だけなら三十元で買つてやる、それも厭なら脱走して鄕里にかへれ、かへるものには旅費をやる。さうしておれの方の給料は士官も兵卒も同額だと政府軍兵士を誘惑してゐるさうです。で、

討伐軍司令官 は討伐どころか、兵隊の脱走を防ぐのに懸命で、前に申したやうに籠城し、塹壕外には三重の網を張廻はしてゐるのださうです。共産軍のやり方も、最初は惡虐の限りをつくして、世人から土匪馬賊と同じものと見られてゐましたが、これは大分南京政府や、某々筋あたりの宣傳が加味されてゐたもの、やうで、このごろ共産軍の實質内容が少しづゝ明かとなるにつれて、吾々の共産軍に對する考へ方がちがつて來ました。かれ等は、ある地方では

土地の分配を やつてをります。學校を建て、病院を設け、その他いろ／＼の社會事業をやつてをります、さうして南京政府の討伐軍よりは『民害』をなす度が少いやうです。政府軍は討伐、出征するごとに、江西の九江あたりでは、徵發をやり、强奪をやつてゐますが、共産軍の方はさういふことをやりません。で、地方人民は、むしろ共産軍の方を歡迎してゐるのださうです。私は共産主義の可否について論ずるものではありません。けれども、かゝる共産軍の存在するにつけて、共産軍は眞に恐ろしいものだと思ひます。（拍手）

右講演終つて、別室に移り晩餐會を開く、宴酣にして顧問清浦伯は起つて

顧問清浦伯爵の挨拶

一言御挨拶を申し上げます。今日本山會長は第三回の東亞調査會をお開きになりまして、先づ第一に前回におけるその後の狀況を詳細に御報告下され、また谷亞細亞局長は豫てその抱懷せらるゝところの御意見を腹藏なくお話し下された次第であります。また次に澤村君はこの會のため會長が特に上海より歸朝を命ぜられまして、而して先刻お互に傾聽したところのお話をして下されたのであります。一年九ヶ月上海に在住して居つたといふお話でありましたが、その間において目擊せられた事實について、徹底的なお話を承り、吾々共、谷局長のお話といひ、また澤村君のお話といひ、大なる參考資料を得た譯合でありまして、非常に興味を持つて聞いた次第であります。會長には、また特に斯くの如き御宴會をお設けになりまして、一同を御招待下さいまして、誠に感謝に堪へぬ次第であります。（拍手）

次いで顧問内田伯爵も起つて

顧問内田伯爵の挨拶

本夕は誠に御丁重な御馳走を頂くのみならず、先刻は誠に有益な谷局長並に澤村君のお話を伺ひまして、色々有り難く存じました。この東亞調査會をお起しになりました本山會長の御主旨は、昨年、一昨年分らなかつた事も分るやうになつて來たやうに思ひます。この調査會は氣永くやらなければ何の役にも立たないと私は思ふ。殊に支那の問題、隣國ロシアの如き、こても私等の思ふやうな、日本人の樣な性急な氣分では、こても調査は出來ない、彼等の氣分にならなければ調査は出來ないと思ふ、どうか、この調査會は末永く氣永くやつて頂きたいと思ひます。その前兆と申していゝか、何と申していゝか、有り難い事にはこの調査會の會長、本山翁の如き、またこの會の爲め初めより非常に力を盡された清浦伯の如き、こゝでは一番の御年長であるが、まだお元氣でお若い樣に見える、御顏色を見ると前途遼遠の樣に見受けます(拍手)この調査會も、この御兩人にあやかつて、永く成長することを私は希望致しまして、こゝに清浦伯並に本山會長の萬歲を祝したいと思ひます(萬歲三唱、拍手)なほ云ひ落した事があります。先刻澤村君のお話の中に非常に面白く感じた事がある。それは唐紹儀氏のお話である。私は大正十四年上海に行つた時に唐紹儀氏に會つた。以前には、私と彼とは色々の交渉もあり、古い友人であるから色々胸襟を開いて話を致しました。その話の內に澤村君の云はれた樣に、支那では民氣に反する事は出來ない。近頃の奴等が——その時分卽ち大正十四年頃には未だ南京政府はなかつたが——北京に乘込んで四百餘州に君臨するとか、さう云ふ事を考へれば直ちに叩き飛はされる、支那で民意を問はずして天下を統一しようといふ樣な事を考へるのがそもそもの間違であると、斯ふ云ふ事を申してゐました。先のお話と稍同じ樣な主意を持つて居る樣に思へる。ところで、彼は一番先に清朝に叛いた男で、定めし今日になつて、この狀態を見て不平に思つてゐるでせう。私に會つた時よりもなほ不平に思つてゐる事と思ひます。その時に、私は然らば支那はどんな風にしたらいゝかと云つたら、それには彼も答に窮してアメリカのレパブリックを眞似する譯にも行かない已むを得ずばスイスの共和政かと申して居りました。斯うなると一番困るのは日本であらうと思ふ。結局支那の統一といふ事は六ヶ敷いので、こゝに日本の對支外交の基礎を置かねばならぬと思ふ。然らば支那は統一せずに始終混亂狀態に在るといふ事を基礎にして、それで如何にして日支の國交を持續して行くか、或は既得權を如何にして維持すること

が出來るかといふ事は非常に六ヶ敷い問題である。つまり支那人の生活を研究してその正鵠を得たものが勝つと思ふ。なか〳〵六ヶ敷い話である。六ヶ敷いが、支那が偉い統一政府になるとか、モダン支那になるとか云ふ事に惚れ込んでやる事も非常に危險であるから、痛し痒しで非常に六ヶ敷い、當局者も非常に困難であらうと思ふ。私も或る時代當局者となつて苦しんだ經驗もありますから、特にこの東亞調査會においては、この點について最も力を注がれん事を希望して置きます(拍手)

かくて、主客十分に歡を盡し、撮宴後更に當面の諸問題に就いて各自の意見を交換し懇談を重ぬるところあつて午後九時三十分散會した。

大阪市北區堂島上二丁目三十六番地
大阪毎日新聞社内
東亞調査會
電話（北）五五〇〇 五六〇〇

附錄　支那及び南洋視察記

東亞調査會評議員
大阪毎日新聞社取締役　松内則信

東亞調査會第三回總會において評議員大阪毎日新聞社取締役松内則信氏の中南部支那および南洋に關する講話を乞ふ計畫であつたが、時間の都合上これを聽取することが出來なかつたのは遺憾であつた。ために、茲に、松内氏に乞うて支那及南洋視察記一篇を得、本報告書の附錄として大方の清鑒を仰ぐことに致しました。

はしがき

私は昨年四月から九月にかけて、中部支那即ち長江沿岸の各地を視察し、三峽の奇勝を探つて重慶に到り、それから蜀の山道を過ぎて成都に着き、更に西蜀に出で、西藏國境に程遠からぬところ、支那第一山の名ある峩眉山を極め、岷江金沙江を下つて重慶に引返へし、轉じて上海を振出しに、汕頭厦門廣東から香港を經て葡領マカオに參り、目下支那側が、香港抑壓の爲の大築港建設の地として、評判の高い唐家灣を一見し、孫文の生家にその遺族を訪ひなごして、南洋に向つたので御座います。先づ香港から西貢に赴き、佛領印度支那の交趾支那、カンボチヤを縱斷しアンコール・ヴアツトの一大廢墟を見、國境を越えて暹羅に出で盤谷から鐵路彼南へ、彼南からスマトラ視察、馬來半島を縫うてコーラランポー、新嘉坡に出で、飛行機によつて爪哇に渡り、次で印度教の遺蹟をもつて、近時學者、藝術家の注意を喚起しつゝあるバリー島に遊び、セレベス、英領ボルネオを瞥見して歸朝いたしました。その見聞の一端は、當時大阪毎日、東京日日の紙上に連載いたしましたが左記は其後日本青年館（中南部支那に關して）帝國鐵道協會（南洋各地について）の依頼により講演い

たした原文、それに多少の改訂を加へたものなので御座います。甚だ雑駁且つは視察の一斷面に過ぎないことは、謹んで御諒恕を得たいと存じます。

中南部支那を巡りて

支那が將來に於てどうなるかと云ふ問題は、何びとも考へて居るところであつて、しかもまた何びとにも分らぬところなので、全くこれ一個の大きな謎に屬するのでございます。御承知の如く南京政府、蔣介石の率ゆる國民軍は表面上見事に北方派を破り、共産黨を却けまして、兎にも角にも現在に於きましては天下を統一した形になつて居る。けれどもかやうな形勢が果して何時迄續くものか、閻錫山にしろ馮玉祥にしろ、また汪兆銘にしろ此儘泣寢入になつてしまふだらうか、廣西方面に蟠居して居る共産黨、所謂共産軍と云ふものが此儘矛を納めてしまふかどうか、これ非常なる疑問であります。殊に禍根の深い根さしは蔣内閣の内訌であります。孫文の直系にして蔣氏の先輩たる面々がいつまで雌伏に甘んずるであらうか、（胡漢民事件の如き何よりの好例證であります）これも大きな問題であります。卽ち南京政府――蔣介石の統ぶる此の南京政府と云ふものゝ運命が、將來――近き將來に於ていか樣に變化せねばならぬものであるか、全くもつて謎に屬して居るのでございます。

米支關係の乖離

大體から申しまして現在の支那、南京政府は、先づ親日的傾向を持つて居るといつて差支ないのでありませう。蔣介石は最初支那を統一しました當時に於て、亞米利加に秋波を送つて居たのは掩ふべからざる事實であります。亞米利加の助に依つて將來南京政府の地盤を確立したいと云ふ底意をもつてゐたことは明かであります。昨年始めであつたと思ひます、亞米利加の財政通として知られてゐる――たしかフイリツピンの財政顧問であるケメラー君、之を南京に招聘しまして、この人に支那の現在の財政の脈を執つて貰ひたい、さうしてその上で米國から金を融通して貰ひたいといふやうな意味の依

賴をしたのであります。所が先生やつて來まして、可なり詳しく支那の事情を調査したのでありますが、其の結果は甚だ芳しくなかつた。脈の具合が至つてよろしくない。こんな危ない病人國に投資をする位なら、いくらでも亞米利加國内に有利な、安全な投資の途がある、何を苦しんでかわざ〳〵支那を選ばうやと云ふ極めてはつきりした拒絶的な挨拶を投つけて去つたのであります。是は南京政府にとつて非常な打擊であつた。で亞米利加は、着々今迄支那に投じて居つた資金の回收に努めてゐるやうであります。例へば亞米利加からこれまで各地のミツション・スクールに年々可なり巨額の金を出して居つたのでありますけれども、『どうも詰らん、幾ら金を投じたところが、唯其時ばかりは喜びもするが、結局何にもならない、懲めたがよい』と云ふ意見から、その送金を或は半減し、或は全廢すると云ふやうな狀態でございます。

排日大學の現狀

私が長沙に參りました序に、その對岸の岳麓と云ふところに遊びました、是れは風景の非常に好い所でありまして、その岳麓の麓に湖南大學と云ふ古い大學があります。この學校は昔から排日の巢窟であつた。排日問題と云へば必ず湖南大學の學生が活動すると云ふ位に排日思想の根深い學校であつた。私はそこへ參觀に參りまして、どうも最初は甚だ不氣味でありました。學生が三々五々集つて、私の顏をじろ〳〵見たり、ひそ〳〵話をして居る。どう云ふ目に遭はないとも限らない。けれどもまあ構はぬ、這入つて見ようと云ふので、ぞん〳〵中へ這入つた。所が學監の人が來て丁寧慇懃を極める、『どうぞ此方へ』と云ふので、自分の部屋へ連れて參りまして、茶を出す、顏拭を出す、さうして洵に腹藏なく話もし且つ隅から隅まで學校の中の案内をする、私は何だか狐につままれたやうな感じが致しましたので、元談ばなしのやうに『貴方の學校は以前から大分排日臭ぎなどがありましたのに……』といつたところが、先方は極めて眞面目になりまして『それは從來亞米利加が金を出して呉れて居るからして、自然排日と云ふ方に傾いたのである。併し亞米利加との緣がとう〳〵切れました、もう今は一向遠慮の要らない狀態であります』と、斯う云ふ話でありました。

もう一つ、四川省の成都、蜀の都でございますが、そこに成都大學と云ふのがございます。こゝも從來亞米利加が主と

して金を出して居る。そして四川省に於きましては一番しつかりした大學である。四川省といふよりも支那全體において有數の綜合大學でございます。非常に廣大なる農園を持ち、非常に大きな牧場を持ち、殆ど自給自足の狀態で、亞米利加から立派な教師も大分來て居たのです、ところが是も本年度から著しく送金を減額することになつたので、學生達も頗る不安を感じてをりました。――其後になりまして、私が成都を離れた後に、そこの米國人の教師が一人暗殺されたと云ふ話を聞きました。恐らく送金削減などに原因した騷ぎであらうと考へられるのであります。其他各地の米國ミッション・スクールの閉鎖されたものが少くありません。左樣な次第で教育方面にまで、亞米利加は最早昔日の如く快き出資をなさぬやうになつたのであります。他は推して知るべきではありませんか。

功利的の親日

それから英國でございますが、英國は例の漢口事件で酷い目に遭つた。租借權なども放棄すると云ふやうな狀態で、それに香港におきましても、先年勞働罷業――卽ち支那人夫全體が英國貨物の取扱ひを拒否したといふ有名な事件もあつた。斯う云ふ問題の爲に、いたく感情を害したのでありまして、駐支公使のランプソン氏などは、元來可なり支那に同情を持つて居つた人でありますけれども、此人なども大分打つゞく排英行爲に冠を曲げたやうであります。さあ南京政府は倚るべき所がない、そこで一種功利的――とでも申しますか、餘儀なく親日的傾向を呈するやうになつたのであります。

私の旅行を致します少し前、南京政府は人權條例と云ふものを發布しました。それは詰り人權を公平に擁護すると云ふ建前なのでありまして、取も直さず排日の取締なのであります。日本の貨物を取扱ふ支那商人が兎角に迫害を受くる場合があつたのを法律で擁護する、同時に全國の排日會、各地の排日的會合は之を禁止し取締ると云ふ風に致しまして、表面手の裏を返へすやうに親日的傾向を呈して來たのであります。私の旅行中なども日本人に好意を表する、好意を表さぬまでも積極的な排斥行爲とてはなく、比較的氣持が宜かつたのであります。――が、元來がこの親日といふものは功利から出發して居る、便宜主義から來て居るのでありまして、時と場合によつては、支那流の筆法で、何時どうなるか分らぬ。ですから現在、親日であるからと云つても、それはたゞ今日のことであります。明日の雲行は決して分らないのであります。

反蔣運動の根源

所で南京政府の將來の運命に關する問題でありますが、南京政府の運命を語るには蔣介石氏の運命を語らなければならぬ。それには蔣介石の國内的人氣を知ることが必要であらうと存じます。私が旅行しまして甚だ意外に感じましたことはアンチ蔣介石の空氣が長江沿岸の中部支那、或は南部支那にかけまして存外深く、又存外廣いことであります。全く意外でありました。そも〳〵是はどう云ふ譯であらうか?。

私は昭和五年四月先づ上海に上陸しまして極めて不思議に感じたことは、此世界的不況に際して上海のみが全く不景氣知らずの狀態で股賬を極めてゐることであります。取分け日本其他の共同租界の繁昌と云ふものは驚くばかりで、店舗はどん〳〵增加して行く、空地があれば直ぐ家を建てる、土地の賣買が盛である、郊外迄も殆ど家が櫛比する有樣で、全く黃金時代を現出してゐるのであります。是は一體、何がさうさせるのであるか、併し是が實は、奇妙にも、アンチ蔣介石と關聯した問題として存するのであります。

今の國民黨政府が最初天下を統一して、南京に中央政府を樹立致した時、眞先に其重要なモットーとして廉潔政治といふことを表示しました。それはツマリ從來の如く、賄賂を以て事を處すると云ふことは斷じてしない、租稅は輕減し國民の負擔を出來得るだけ輕くしようと云ふのでありまして、非常にこれが人氣を呼んだのであつた。ところがどうもそれが一年經ち二年經つに至つて、折角のモットーがグラ〳〵動き出し、墮落して來たのであります。租稅の徵收と云ふものが餘ほど激しい、以前に比して更に酷を加へる、全くもつて苛斂誅求と云つても宜い狀態であります。それに土匪の猖獗、土匪の暴擧が從來に較べて一層猖獗を極むるに至つた。天下が統一されて却つて土匪が殖えると云ふことは頗る不思議でありますけれども、政府が富豪に對しては元より、細民に對してまでも租稅―勞力稅ともいふべきもの―の誅求が甚しい。單

に租税ばかりではなくその他に『捐』と稱する一種の變形的税法までも設けらるゝに至つた。捐と申すのは義捐金の捐で、租税に慊らずして更に國民から義捐金を徴收する。是は殆ど命令的で、租税も同じことであります。道路を直す、直ぐ道路捐と云ふものを徴收する、自動車が通る、直ぐ自動車捐と云ふものを其沿道の民衆から取ると云ふやうな狀態で、農民に對する租税の過重なことはいふも更なり、それからそれへと租税の誅求を受けるので殆ど人民が立行かぬ、個人々々が路頭に迷つて放浪するだけにとゞまらず、甚だしきは一村一部落を擧げて流浪せねばならぬ運命に立到るものも決して少なくない、之を支那では流民と云つて居ります。昔からも流民と云ふものはあつた、併し殊に近來それが多くなつた、即ち政府の誅求の激しいのに正比例して流民が多くなつて來たのであります。流民のうち弱い連中は乞食になるか餓死するかの二つに一つである。支那に乞食の多いことは、一つの名物ともいつてよいのであります。それで強い個人又は團體は變じて土匪となるのであります。さうして一つの土匪團が更に他の土匪團と結んで段々大きな團體を組織し、政府の手にも負へぬ勢力を占むるやうになるのであります。現に上海に於いてさへも、多分新聞で御承知のことゝ思ひますが、あの繁華な街を歩くにも一寸油斷をすれば土匪に引さらはれて、後で賠償金を出さなければ身柄を返されぬと云ふやうな狀態なので、他の地方の物騒さは推して知るべきでありませう。左樣な譯で土匪は横行する、租税の誅求は甚しいと云ふことから、少し金を持つた者は上海にのがれて、共同租界へ這入れば先づ安心であると云ふので、金を持つてどんどん上海に逃込んで來る。尤も更に多くの富を持つて居る土豪とでも云ふやうな、地方に於て澤山の土地を持ち、澤山の一族を持つて居る階級は、其地方々々の要害のよさゝうな所へ山寨、謂はゞ城郭とも云ふべきものを築き、私兵を置いて守備を嚴にし、さうして財産を守り、殆ど其山寨で自給自足をすると云ふやうな狀態にあるのもあります。しかし先づ中所以下の金持と云ふものは皆上海の租界へと落のびる。上海は是が爲に日一日と繁昌する。詰り上海が繁昌すると云ふことは、軈てそれは民衆の怨嗟の聲を象徴するものともいへますし、奥地がどれだけ酷く疲弊して居るかと云ふ證據ともなるのであります。さうして南京政府に對する反感を深刻ならしめるのであります。

所謂閨閥政治

もう一つは、是も上海繁昌の原因となり、同時に南京政府に對する怨嗟の原因ともなる問題なのでありますが、御承知の如く、蔣介石は浙江省の出身でありまして、首都は例の西湖の勝景を以て知られて居る杭州、あの浙江省の出身である關係から浙江の財閥を誘つては上海に於て事業をやらせる、上海における有利な事業は多く浙江財閥が握つて居るのであります。蔣介石氏は、從來陳家の女を入れて細君にして居つた。それが今は之を去つて孫逸仙の未亡人であるところの宋慶齢、それの妹の宋美齢と云ふのと結婚したので、支那人に言はせれば是は政略結婚であるとされたのでありまして、最初の間は宋慶齢も孫文未亡人の名に於て大に蔣介石氏を助けたのであります。其後例の露西亞から來たところのボロジンそれから共産主義、極左派の陳友仁などゝ宋慶齢が結ぶやうになりまして、蔣一派とスッカリ離反して今露西亞へ行つて居ります。亡命と云ふ意味ではありませぬが蔣氏に痛罵を浴せて露西亞に走つてしまつた——其妹の宋美齢を細君として居るのであります。ところが、此の宋美齢なる夫人がまた中々の利け者で、政務にまでズン〳〵嘴を入れるし、贅澤の仕放題といふ始末だが、流石の蔣大人も是には殆ど頭が上らぬと云ふことであります。その兄弟の宋子文氏、ツマリ閨閥の關係からこれに財政全局を委任するに至つたのであります。そこで宋子文は浙江財閥と交渉し結托して、さうして軍費をこの方面から捻出すると云ふことになつて居るのでありますが、唯軍費即ち公費の點ばかりならまだ宜しいのでありますけれども、大分之に依つて蔣介石氏の私財が殖えた、のみならず宋子文氏の私財も頗る殖えたと云ふやうな狀態にあるのであります。餘ほど巧妙なる搾取をやつて居る。是が非常な怨嗟を買ふ所以なのでありまして、どうも蔣介石は一族政治をやつて居る、閨閥政治をやつてゐる、と云ふ非難が支那の識者の間に持上つてゐるのであります。浙江財閥も初めのうちは頗る喜んで居つた、即ち自己が利益を得られるのであるから、其利益の幾分を献金すると云ふことは一向差支ない——日本などでも、御用商人といふもの、存在の裏には、兎角暗い影が潜み勝ちなのですが——斯くして浙江財閥も初めは喜んで居つたけれども、餘りに御用金が甚しいので、近來は彼等までも蔣氏の天下を呪ふと云ふ狀態になつて來た。私が杭

州に參りました時も、彼地の相當有力者に會ひましたが、皆どうも蔣氏を讃歎しない、寧ろ孫傳芳時代の德政を慕つて、孫の再起を望んで居ると云ふやうな、不思議な事態を呈して居りました。新聞にも出て居りましたが、先頃宋子文が辭表提出の芝居を打たうとした。それは將來國家の財政を自分が完全に處理する見込がないからといふ理由なのでしたが……私はひそかにハ、ア、浙江財閥との間が段々惡化して來たのだなと思つた次第であります。

廣東方面の向背

又廣東と云ふ所は、今の國民政府の發祥の地ともいふべきでございます。彼處から起つて天下を統一した。廣東は南京政府にとつては杖とも柱とも頼む大切な所で、その向背と云ふことは、南京政府に取つては極めて重要な問題であります。私が廣東の二三有力な人と會談したところによると、どうも蔣介石氏が閥閥政治をやり、浙江財閥のみを助ける行動は甚だ困る、是はまさに國民黨を誤るものである。廉潔政治のモットー今いづれにありやと、頻りに論難致して居りました。(今度の胡漢民問題によつて人心の離反一層甚しいことは申すまでもありません)私の旅行當時に於ても、閻馮一派との戰に勝つたから宜いやうなものゝ、若し南京軍が少しでも弱味を見せるやうなことがありますと、廣東の向背如何になり行くかは、豫斷を許さなかつたのであります。一部の間には廣西の共產軍と廣東方との間には、一種の默契ありなどゝの噂さへある位で、現在の廣東と云ふものは少しも南京政府の金城湯池ではないのであります。斯う云ふ次第でございますので、財源こそ浙江財閥からの搾取、租稅の誅求等によつて、兎に角豐かでありますので、將來も戰爭そのものは恐らく敗るゝやうなことはないのでありませうけれども、識者の反感と云ふものが今後如何に動くか、一般の民衆が――支那の民衆は勿論極めて低級無智なものでありまして、民衆に輿論なしと言はれる位に、ただその時代々々の權勢者に服從する、盲從と云ふに過ぎませんけれども、時代は流るゝ、さう云ふ狀態が果していつ迄も續くであらうか、それに前に申した政府部內の――それに黨部と政府側との――內訌、それがどう發展するか、これ等の點に多大の不安が潛むものと言はなければなりません。

孫中山の遺族

是は一寸一つの挿話でございますが、私は廣東へ參りました後に、澳門に行きました。澳門は人も知る如く葡萄牙の領土であります。此處は極めて頹廢せる港でありまして、殆ど賭博を公開して、それに依つて財政を立ててゐると云ふやうな所でありますが、それから三里ほど距つた所の翠亨站、是が孫中山の誕生の地なのであります。私はその生家を訪問しました。現在に於きましては、中山の姉さん、今年六十五とか云つて居りましたが、その人が一人殘つて居るだけであります。私が前房に併せ祭らるゝところの中山、中山の父、中山の兄(この人は元華僑で、南洋に出稼ぎして財をつくつたので、中山の革命運動に對しては財政的に與つて力あつた人であります)この三つの寫眞の前に禮拜しましたところ、姉さんは大變私の訪問を喜び、是は貴國のビールだからと云つて、朝日ビールを出して御馳走をして呉れた。色々話を致しましてから『南京政府は定めしあなた方御一族に充分扶助をしてゐるのでせうな』と尋ねましたところ、姉さんは急に憎れた風情で頭をうな垂れて答へません、はて是は惡いことを言つたと思つてゐると、側に居ました附添の男の人はこれを引取つて『イヤ何うも南京政府も多事ですから、こゝまでは手が屆きませんので――』と言葉を濁らせたのでありました。ツマリ南京政府の必ずしも有情ならざるを語つたものであつて、その後他の事情通から聽いたところによると、政府からの扶助といふやうなことは何うも思ふやうでなく、僅に中山の息子の孫科氏から送る金を以て支へて居ると云ふやうな譯合なのであります。孫中山の墓陵と云ふものは南京の城外に極めて宏大壯麗に出來上つた、新古東西の式を取まぜた樣式で先づ世界に於ても稀に見る壯大なものでせう、それから凡そ都市村落、家といふ家、店と云ふ店には中山の寫眞が必ず掲げられて、上下尊崇の的になつて居ります。表面は左樣でありますけれども、一たび遺族の方になりますと、手薄の嫌ひなきにあらざるやうに思はれます。是等もまた多少蔣介石氏の德を傷つくるもの、如くに支那の識者はいつて居ります。

一體蔣介石と云ふ人は、私が申上げる迄もなく、なかなかの精力家であり、又なか〳〵の手腕家であります。此點に於ては敬服に値する次第でありますが、率直に私の感じたところを申上げますと、遺憾ながらどうも德の點に於て缺くる所がありはしないか、是が氏並びに南京政府の將來に禍すること尠少ならずではないかと云ふ風に思はれるのであります。

廉潔政治の裏面

私は上海から汽車に乗りまして、例の蘇州に一泊、姑蘇城頭その名蹟を愛賞し、それから南京に參りました。南京は支那の古い都でありまして、往昔は殷賑を誇つた時代もありますが、明以後都が北京に選つてからと云ふものは、南京は殆ど地方の一都市として忘れられて居つた。ところが國民政府が之を首都として政府を樹立すると云ふことになつてから急遽に發展致しました。官衙が忽ちに出來る、澤山の軍隊を收容する、從つて人口は激增すると云ふ譯でありますが、之に對する準備がまだ充分に行屆いて居りませぬので、兎角どうも新開地のやうな感がいたすのであります。成程城内には鷄鳴寺とか雨花臺とか、莫愁湖とか乃至清涼山とかいふ名勝もあります、城外には有名な紫金山を背景として、明の孝陵もあれば、それに隣つて前にお話しました如き壯麗宏大な孫中山の墓陵もあるのであります。外觀は極めて立派なものでありますけれども、どうもまだ新開地の感ーツマリしつくりした落つきがないのであります。それがやがてまた南京政府の内容に落つきのない、何處かに不安の潛むことを象徴して居らのではないかとも考へられるのであります。南京政府を樹立致しました當時は、いはゆる廉潔政治の立場から、城内に嚴達して不吸煙、不賭、不嫖といふ三つの禁令を出したのであります。不吸煙と申しますと、阿片を吸つてはいかぬ、不賭即ち賭博をやつてはいかぬ、不嫖、これはツマリ折花攀柳を戒めたものでありますので、現に秦淮と云ふところは、名にし負ふ狹斜の巷であつて、いはゆる秦淮三千の美人、當時千五百名ほど居つたのを捉へてその輕羅を脱がせ、商店の賣子などに商賣がへをさせようとしたところ、何れも恐れをなして上海へにげ出してしまつたといふ珍談もありますが、兎に角そんな風に廉潔政治を斷行したことは殊勝の至りだつたのですけれども、それもほんの一時の現象で、今は事實上、阿片も吸へば、賭博も行はれる、醜業方面も段々復活して來るといふ有樣、最初の政府の聲明もスッカリ裏切られる始末となつたのでありまして、現に政府の要人とか、又金持の商人などゝ云ふものは、土曜日の晩から必ず上海へ行つて月曜の朝迄遊んで來る、殆ど日曜日には南京はがらあきであると云ふやうな狀態なのでして、廉潔政治の裏面、笑止とや申さん成行で御座います。

長江沿岸の日本人

さて私は南京から汽船によつて漢口に向ひました。此長江は今、日本、支那、英吉利とこの三つの汽船會社が競爭でやつて居ります。私は日清汽船即ち日本の船に乘つたのであります。汽船は悉く武裝であります。甲板が張りつめてあり、さうして海軍の士官、兵士が乘込み機關銃を据付けて、スワ鍵倉といふ時はいつでも應戰の出來るやうになつてをります。それでなければ危くて航行が出來ない。いつ何時土匪が押寄せるかも知れないし、又氣紛れな兵隊が發砲するかも分らない。平和な時代——私の遡航した時はまだ南北戰爭もはじまらず、兎に角平和の時代だつたのであります、その平和時代に於て、武裝しなければ船の航行が出來ないといふやうな國柄は、世界のいづこにもこれを求むることが出來ないではありませんか。實際先には日清汽船の船長某が砲擊されて慢死したこともあり、機關長何某が土匪の餌に拉し去られて殆ど半年も支那の奥地を引張廻されて、九死に一生を得て漸く逃れ歸つたと云ふやうな事件もあります。でありますから何うしても武裝しなければ通れない。私なども船に乘つて居ながら、始終不安の氣持でゐなければならなかつたのであります。漢口に着きまして、あれから大海原のやうな洞庭湖を通つて、長沙湘潭あたりにも參りました。それから宜昌を過ぎて段々長江を遡航したのでありますが、茲に甚だ遺憾に堪へぬ問題が横はつて居ります。それは漢口とか、長沙とか、其他各地方の都市に於きまして、從來は相當日本人の商店が存在してをつたのでありますけれども、それが彼の南京事件、ついで濟南事件等の排日問題に災ひされて以來續々店をたゝんで、日本に引上げて了つたことであります。されば只今は各地に踏とゞまつてゐる邦人の店は、甚だ寥々たるもので、この分で參りましたら、遂には絶滅の姿になりはしまいかと思はれるのであります。實際上長江沿岸各地におきまして、日本の威信などいふものは爪の垢ほどもないといつて差支ありません、この點は北部支那における日本の立場とは全く事情を異にいたして居るのであつて、たゞに威信なきばかりでなく、支那人の愚弄に委して居るといふ有樣であります。漢口に着きました時、そこに居留せられる有力な邦人諸君から、何か私に話をしてくれとの事で、一夕講演を試みたのでありますが、その後で談が濟南事件に及び、日本の輿論は田中内

閣の處置を非難し、あの出兵問題を遺憾なこゝとして居ると云ふやうな話をしました所が、一座の諸君は甚だ不本意な面持で『イヤそれは大間違ひである、吾々は田中流の武斷内閣を謳歌する、あの南京事件で、いはゆる幣原外交なるものが終始支那に譲歩ばかりして居つたものであるから、日本與し易しとして、それから愚弄、侮蔑の態度を取るやうになつたのである、濟南事件の勃發するに至つた原因も、またこゝに存するではないか、それでも濟南出兵を斷行した爲に、今日まで多少命脈を保ち得てゐるのである、或程度までは武斷政治で行かなければいかん』との抗議を持出されました。私は意外の感に打たれました。――上海は勿論、漢口、長沙、宜昌、重慶等、沿岸の重點ごころには、日本の軍艦がそれ〴〵派遣されてありまして、軍艦の姿を見るといかにも現金なもので、支那人の對邦人態度が變つて來るが、一度軍艦が見えなくなると手の裏を返へすやうに直ぐ邦人を馬鹿にする事實は、私の目擊したところであります。されば在留者諸君のこの抗議も、眼前の事態として、一つの理窟はあるので御座います。實は先年も哈爾賓へ參りました時、丁度日本がまだ駐兵して居つた當時でありましたが、矢張り在留の人々との會合の席上で、大局の上から撤兵の可なるを說きましたところ一座擧つて反對で、いつ迄も兵隊を置いて貰はなければ困る、撤兵した曉には、吾々の運命がどうなるか分らぬではないかと言はれた。漢口での場合も、それと同じ事情なのであります。内地の人々の考へでは、或は異樣の感あるやも知れませんが、在留諸君の心理は蓋し斯ういふ風なのであります――。右樣の次第で、日本の勢力と云ふものは長江を段々遡れば遡るほど薄くなり、遂に消滅するのであります。

然らば日本の貨物はどうであるか、日本品はどう云ふ風になつて居るかと申すと、是はさまで悲觀するに及ばぬやうであります。濟南事件のボイコット時代でも、商標を變へ上包みを變更して日本品が賣込まれてゐました。例へばマッチ一つでもメイド・イン・ジャパンと云ふのが、メイド・イン・ユーロップと云ふ洵に茫漠たる名前に早變りして、依然輸入されてゐるといふやうな行方で、日本の商人が向うへ行つて大に發展しようと云ふことは甚だ望みないことでありますが、支那商人の手によつて捌かれる日本品の前途は、必ずしも悲觀するには及ばないと考へるのであります。

それから先刻に、繁榮が上海にのみ集つて支那の内地は疲弊を極めて居ると云ふ話を致しましたが、銀貨の如きもだぶつ

いて居るのは上海だけでありまして、内地に這入ると、頗る拂底なのであります。一寸一例を申上げますと、私が重慶からいよ〴〵奥地へ這入るといふことになりまして、是非とも銀貨を用意して行かなければならぬ、四川と云ふ所は殆ど獨立の一國家と云つても宜い位に、自省で鑄出した銀貨、それでなければ殆んど通用しないといふことで、在留邦人の斡旋によつて、三百圓だけの銀貨を交換して貰はうとしたところ、諸方を駈ずり廻つて、遂に一日を費し、辛うじて二百五十圓を得たに過ぎなかつた位、それほど奥地に於ては、銀貨が拂底であります、疲弊の事情は意想のほかなのであります。農民などは、日夜營々として働いて居りますけれども、窮困疲迫、遂には前にも申した如く流民となつて、餓死する者が少からぬのであります。彼等はそんな境地に置かれながらも、決して自暴自棄にはならない。文字通り驚るゝまで働く、そこに支那民族の恐るべき根氣、底力を認めねばならぬのであります。

支那民族の强味

將來の支那は如何になるか、或は非常な英雄が現れて本當にしつかりした基礎の上に支那を統一するか、又は四分五裂して、幾つかの國家の分立、――例へば滿洲は滿洲、四川は四川、廣東は廣東といつたやうな風に、五つか六つに分れて、それ〴〵一國家を建設することにでもなるか、それは全く謎としてのみ考へられるのでありますけれども、支那民族といふものは、この世界にます〴〵根强い力を植つけて行くと見るべきであります。苛斂誅求に虐めぬかれ、殆ど食うに食なく、着るに衣なき始末でありながら、默々營々として勞働を續けて行くその驚くべき底力――假に日本にさう云ふことがあつたとしたならば、恐らく國民的發狂の狀態に陷るかも知れない。所が支那人は悠々たるものであります、平氣で耕し平氣で働いて居るのであります、其勤勉は驚くばかりであります。さうして若し今の四億の民衆にもう少し教養と云ふものが進んで行つたとしたならば、それこそ實に恐るべきものであると考へるのであります。支那の現在を見て、一概に見くびると云ふことは甚だ宜しくない、國家と云ふものと民族と云ふものとは離して考へて見る必要があらうと存ずるのであります。現に南洋の方に參りまして、華僑、卽ち支那の出稼ぎ商人の狀態を見ましても、――大體華僑の主なる者は廣

東、福建から行くので、一年に何萬人と云ふ數が南洋に出稼ぎをするのであります。此夥しき移住者によつて、英國船、支那船などが立派に船會社を經營して行くといふ位に。――それらが努力勉勵して金を溜め、これを本國に送るといふ仕組みで、先づ厦門、汕頭あたりが其一番中心地でありますが、厦門あたりに年々南洋から送つて來る金額は二千萬弗にも達し、汕頭に至つては更にそれ以上に達するのであります。

併しながら更に他の一面を見ますと、華僑のもつ近來の一傾向として、支那に取つて甚だ利益ならざる點が現はれ來つたのであります。それは華僑といふものが、從來は一意專心稼いではその蓄積を鄉里に送ることを目的とし、寧ろ唯一の樂しみともしてをつたのでありますが、それが何うも、本國の苛斂誅求餘りに急なるところから、彼等も漸く『これはいかぬ、幾ら稼いで金を送つても、結局皆な絞り取られて了ふ、加之、折角澤山の金を蓄へて鄉里に歸へり住はんとするも、遂に安住の地なきを奈何せんや!』といふことを考へるやうになつて、これは一層南洋を墳墓の地と定むるの安きに若かずといふので、送金も漸り勝ちとなり、錦を着て鄉里に歸へるといふ考へも著しく減退して行つたのであります。若し華僑が支那に送金しないと云ふことになりますと、それは支那の重要な財源の一つが全く覆るに至るのであります。南京政府も如才なく此點には注目致して居りまして、頻りに華僑の歡心を買ふに努め、國家存亡の理を說いて、送金を勸誘するのでありますが、本國に送る金が段々減つて來る、それは勿論不況による影響もあるのですが、厦門などでも一昨年あたり迄は二千萬弗から少くとも千五百萬弗の金を送つて來たものが、昨年の總勘定では漸く五百萬弗位なものであると云ふやうな始末、鄉國を喜ばぬと云ふことが、南洋に居る華僑の頭の中に、著しく瀰漫しつゝあるのであります。斯う云ふことは、矢張り南京政府にとつて、頗る不利な問題たるを免れぬのであります。

蜀の三峽

尙ほ是から話頭一轉、蜀の三峽を通りまして成都、峩眉の山の旅行談を致したいのでありますが、餘り長談義になりますのでほんのザット三峽について申上げるにとゞめねばならぬことを遺憾に存じます。蜀の三峽と申すのは卽ち宜昌峽、

巫山峽、風箱峽で、宜昌を發して間もなく先づ宜昌峽に差しかゝるのであります。長江は冬の時期になりますと、著しく減水して小さい船でなければ通れぬ。所が夏から秋にかけましては、主として長江の水源である西藏方面の雪融けの爲に、非常に增水いたすのでありまして、何しろ極度の減水期と一番の增水期とでは、水面百呎も遡ふといふ位でありますから――この時期になりますと、悠に千五百噸から二千噸以上の船が重慶迄遡航し得るのであります。其途中には禹が治水をやつた記念である黃陵廟とか、諸葛孔明が兵書を匿し藏したといふ兵書寶劍峽とか、又は白樂天謫居の跡だといふ白天公祠といふやうな古蹟を仰ぎます。それから有名な白帝城、是は三國志などで御承知の如く、劉備が孔明の諫止するのも聽かずに成都を出で、吳の國の將軍陸遜の軍をば宜昌方面に邀へ戰つて大敗し、この白帝城に逃げ返つた、併し何うも孔明に合せる顏がないといふので遂にこゝに閉ぢこもり、憂悶の結果病を得て病歿したといふ、悲痛な歷史をとゞむる白帝城――高岳、大江に臨むところ、その中腹に白々と仰がれる城であります、此の白帝城は既にもう三峽を過ぎた所にあります。三峽はいづれも山嶽重疊、仰げば碧落を摩して高く、俯せば大江を壓して水爲に激して灘をなすといふ偉觀、壯觀人の膽を寒からしむるのでありますが、就中巫山十二峯の奇絕怪絕をもつて最といたします。それから急灘も數々ありますけれども牛口灘、新灘、興隆灘など殊に激しく、これ等の灘を乘切るのは至難の事とされ、私の乘つてゐた汽船など最高十五哩一ぱいの速力をかけまして、それで漸く一哩位しか進まない、甚しきに至りますと、幾度か押戻される始末であります。小さい汽船などは餘儀なく兩岸數百の人夫をして長い竹綱をもつて曳々と引かせ、辛うじて乘切るといふやうな狀態、今まで難破の災に會うたものも少からぬさうです。一度は遊んで見て興深きところと思はれます。

尙ほ入蜀のお話、詳細に記したいのでありますが、これは機を得て別に申上げることにいたしませう。

南洋見聞の種々相

佛領印度支那は表面上フランスの保護領といふことになつて居りますが、申す迄もなく總てが植民地制度の下に置かれてあるのであります。印度支那が佛國の領土となりましたのは凡そ百年前から五六十年前までに亘つて居るのでありまし

てその統治の歴史がまだ新しいだけに統治上の諸設備が完成されて居るとは申されないのであります。で、大體の方針からいふと、フランスはどこ迄も威壓的にこの植民地の土人を征服しようと致して居るかに見えます。そこに多くの破綻が醸されるのであります。一體この佛領印度支那は南の方から言ひますと、交趾支那、カンボヂヤ、それから北方には安南、東京、ラオスといふやうな國から成つて居りまして、是等土着民の數は固より的確な數字で言ひ現はすことは出來ませぬが、凡そ安南人が二千四百萬人位、あとの土人は各國を合せて五六百萬合計三千萬内外に達するであらうと目されて居るのであります。

安南人の獨立運動

即ち土着民中安南人が最も多數を占めて居るばかりでなく、この安南人といふのは他種族に比して多少文化も進み且つ至つて頑強――慓悍とも申しませうか極めて統御しにくい人種なのであります。彼等は今日迄も度々フランスの領土から脱しようとして叛亂を企てゝ居ります。先づ第一には勤王黨――これは現在でも兎に角存在する安南王――この安南王を守り立てて、昔の全盛なりし時代の安南王國を造り上げたいといふ理想でやつて居るので、これには潘佩殊といふ志士が首謀者となつて居るのでありまして、その主義主張こそ異なれ、丁度印度のガンヂーなどと並び稱せられる人物、それが凡ゆるフランスの迫害と戰つて所期の目的を達しようとして居る。第二は立憲共和黨、これはその名の如く印度支那共和國を現出しようとする企、今一つは極く左傾的な共産黨で、これが近來なか〳〵勢力を得て來て居ります。つまり支那の廣東、廣西邊から支那人が入込んで頻りに共産主義を注ぎ込み、教唆をして居る樣子があるのであります。是等の者がそれ〴〵違つた方面からいろ〳〵の方法に依つてフランスに對して反抗を企てゝ已まぬのであります。現に本年二月頃でありましたか、東京(トンキン)地方に於て東京安南人に依つて成る兵士が不意に起つてフランスの士官を屠殺したといふ事件がある。これに對してフランスは、無論直ちにそれ等の兵士を捕へて銃殺處分を行つたばかりでなく、飛行機を飛ばせて、その附近全體の村落を爆破したといふのであります。さういふ風にフランスは何處までも威壓的に行かうとする。それが却つて土着民特に安南人の反抗を強からしめて居るのであります。今南洋に於ける各國の植民政策を見ますと、現在アメリカの

比律賓に於ける政策――比律賓は可なり根強い獨立運動が續けられ、米國も餘程嫌氣がさして居る氣味もあつて、旁々鑾てその目的を達することも遠い將來ではあるまいとさへ見られて居るのでありますが、これを除いては、佛領印度支那の如きも難治の一つであると思はれるのであります。それだけに佛國は、私の愚見を以てすれば植民政策としては寧ろ失敗の歴史を繰返して居るのではないかと思はれるのであります。

安南の排日貨問題

前申した如く、フランスは土着民に對する對内政策に於て可なり苛だゝしい氣持で臨んで居ります。のみならずフランスに取つてはもう一つの惱みが横はつて居るのであります。それは經濟問題でありまして――フランスは佛領印度支那から所謂重商的政策に依つて搾取を試みようとする考を有ち、着々これを實行しつゝあるのであります。從來この地方に貨物を一番餘計に出して居るのが日本である。雜貨類、綿糸布類、その外日本貨物が河内(ハノイ)とか海防(ハイフォン)とか西貢などを經て非常な勢を以て入つて居つたのであります。現に大阪商船の如き從來は立派に定期航路を有つて居つたのでありますが、フランスはどこ迄もこれを防ぎ止めよう、これに代ふるにフランスの貨物を以てしなければならぬといふので、日本物貨に對して驚くべき重税、殆ど禁止税と言つてよい位な十割乃至十五割といふ關税をこの佛領印度支那に限つて課して、關税障壁を作るやうになつたのであります。これに關しては日本政府も數年來フランス本國と外交的交渉を續けて居るのでありますが、フランス政府はどうしてもこれを受附けようとしない、それには頑冥な黑幕が控へて居るからなのであります。それは佛領印度支那で成功して、今巴里に集つてゐる金持の間に、印度支那商工會といふものが組織されて居る。これがどうしても印度支那に對してはフランスの物貨を直接入れなければならぬといふ主義で、飽く迄も日本品の輸入に對して妨害を加へて居るのであります。彼等の理由とするところは、フランスの領土に對してフランスの品物を入れる爲にはどういふ方法を講じても差支へないではないか、それが決して日佛の親善に關係する性質のものではないではないかといふ根本主張なのであります、彼等の放言するところによれば――歐洲大戰に際して、日本はフランスに非常な好意を寄せて

居つた、佛領印度が安全であつたのも、畢竟日本が東洋に於て十分に海軍の活動をやつて居つたからであるといふ、成程それはさうであらう、けれども日本は歐洲大戰に依つて非常な利益を獲得して居るではないか、フランスが恩を蒙つたといふよりは、結果に於ては日本がフランスの恩を蒙つたと言つても宜いではないか――といふ可なり露骨な逆襲的意見を唱へて居るのであります。されば日本は外交的、紳士的に今日まで度々交渉を重ねて居るけれども、何時でも失敗に終つて居るのであります。日本では最後の條件としてフランスでごうしても出來ない物貨に關する限り、日本から輸入される場合、適當な低税率にして貰ひたいといふ要求をして居るのでありますが、ごうしても商工會なるものが頑として肯かない。さうしてこれが歴代フランスの内閣を動かして居るのであります。

佛國商人の暴利振

現にその以前デルカッセ氏が外務大臣の當時、餘程關税低減の話が進んだのであります。ところがこれに依つてデルカッセの人氣は國内に非常に悪くなつた。印度支那商工會の悪宣傳にかゝつて人氣が悪くなつたといふ事實があるのであります。又前の駐日大使クローデル氏もこの問題に關して大分理解があつたのでありますけれども、是亦如何ともすることが出來なかつたといふやうな次第で、外交の衝に當る人々はこの問題に對しては恐れをなして、ほんとうに踏み出さうといふ人がない位に甚だしい難關なのであります。懸案はいつまでも懸案として、私は到底成功の機會はあるまいと思ふのであります。さうしてこの問題が又安南人其他土着民の深刻な反感の一つになつて居るのであります。――といふのは、フランスの貨物は無税で入れる、從つて本國からの運賃をかけても相當に利益のある程度で安價に賣れば宜いのであります。然るにフランスの商人はそれを日本貨物に課した重税の結果の代價と同じ値に賣つて居る、これはまさしく不當の暴利である、苛酷な搾取であるといふことで、土着民の非難、反抗の一つの大きな理由となつて居るのであります。もう一つフランスが印度支那の問題に對して非常に神經を尖らして居るのは、英國がシンガポールの軍港に着々と海軍の充實をやつて居ることであります。一衣帶水のシンガポールに於けるこの事實は、たしかに佛領印度支那に於ける一大脅威でなけれ

ばならないのであります。私の目擊したところによれば、フランスの軍艦は西貢邊に可なり多くの常備を有つて居りますけれども、それ等は英國のシンガポールに於けるものに比すれば全くもの、數にならぬのであります。是等對内的には、土着民の反抗、對外的には外國貨物、主として日本物貨の防止問題、それに軍事上から英國の軍備といふ三つの事情の爲に、フランスは今や神經衰弱の狀態に在ると見られるのであります。事情かさうなればなる程印度支那商工會といふものは興奮して、疳高になつて、益々我が外交々渉が困難になつて來るのであると思ひます。

煩鑛な入國手續

斯ういふ問題が横はつて居る。されば自然の結果として、外人殊に日本人の入國を喜ばぬのは餘儀なきことでありませう。私が香港からフランスのメールを摑へて、西貢に向はうと致しましたところが、船會社が非常にやかましい、私は神戸のフランス領事のヴィザを持つて居つたのでありますが、それではいかぬといふ。香港のフランス領事の證明でなければ切符を賣らないといふのであります。それで西貢に着きますと、その檢査が面倒を極めまして、いろ〳〵な訊問を試みた揚句、漸く他意なきことが分つても尙且旅券は一日預つて置くといふので、漸くその翌日になつて西貢の警察署から下渡されたといふ譯で、南洋行途の第一歩は、私にとつては頗る愉快ならざるものでありました。さういふ次第で、西貢に上陸後漸く内地に入ることになりまして西貢から暹羅の國境アランヤといふ處まで通しの自動車――里程千五キロ程、日本貨三百五十圓程の勘定でした――に依ることになりましたが、途中プノンペン、アンコールヴァットといふ處を見物する爲に三日半程を費したのであります。このプノンペンと申しますのは西貢から半日程の所で、昔からの王宮の所在地で、此處にはカンボヂヤの王様が虚位を擁して居るのであります。この王家はクメール王朝と言つて、印度人系と申しませうか、紀元一世紀位の頃から王朝を樹立して、紀元八、九世紀から十一、二世紀頃までは非常に盛んであつた。殆どカンボヂヤを中心にして、あの附近全體を統治し、その勢力は今の暹羅の方面までも伸びて居つたのであります。現時では唯佛國統御の下に名ばかりの王位を襲いで居るばかり、内容は頗る貧弱なものですが、兎に角一見したところ可なり壯麗な宮

殿だけは持つて居るのであります。私は其處を見物したのですが、金を少しやれば王冠も持つて來て見せる、寶劍も拔いて見せるといふ狀態でした。

婆羅門の一大遺跡

次にアンコールといふ處に驚くべき遺跡――一大廢墟を見物したのであります。これも矢張りクメール王朝支配の下にあつたので、紀元十世紀から十二、三世紀にかけてこのアンコールといふ處に都市を打建て、宮殿を構へ、その信仰する婆羅門の伽藍を建造したのであります。現在殘つて居るアンコール●ヴァットといふのは、その伽藍中の最も大なるものの遺跡なのであります。元來印度系統であるところのクメール王朝は、婆羅門教を國教として歷朝の信仰最も深かつたので、アンコール●ヴァットの樣式も勿論婆羅門の樣式に依つたもので、外廓が周回二哩ばかり、さうして內部は外廊、中廊、內廊となつて居りますが、その建築の雄渾たゞ驚嘆のほかなく殊に外廊の壁畫――ラマヤナ物語などを彫んだ精巧の技は洵に印度美術の粹といふべきであります。全體の築造は今や大分破壞されて居りますが、これが起工は十二世紀の初期と目されるのでありまして、それより數代の王が引きつゞき工を進めつゝ十三世紀に至つて大半竣成を見たけれど、惜しいかなその當時からクメール王家の勢傾き、十四世紀に入るに及んで遲羅の侵略を受くること幾度、遂にアンコール一帶の地を遲羅の手に委してしまつたのであります。遲羅はこゝを取ることもに、その伽藍の內容をば出來るだけ佛教の樣式に變へたので、今は半ば婆羅門、半ば佛教の樣式といつた風な頗る奇異なものでありますが、兎に角その規模の雄大なることは恐らく世界にその比を見ないのであります。私は曾てローマのあの有名な廢墟を見ましたが、その規模に至つてはアンコール●ヴァットが格段の優位にあるのであります。

安南に往來した日本人

アンコール●ヴァットに就て記して行くと長くなりますから略しますが、豐臣家滅亡後、德川治世早々、未だ鎖國條例

を布く以前の事、加藤清正の家來森本儀太夫といふ人、これは清正の家來として可なり勇名を蠶かした人ですが、加藤氏は二代に及んで減地國替となるに際し森本儀太夫も主家を離れて放浪し、攝州池田に住んで居つた。その子に森本右近太夫といふものがあつたのです。さうして流浪中父儀太夫長逝し、次で母も歿したので、右近太夫は兩親の菩提を弔はうといふ考へもあり且つは埋れ木の花咲く時もなき境遇に世を儚んだ心持もあつたのでありませう。遙々このアンコールに來た事實があります。これはアンコール●ヴァットの中廊の中程の柱に、墨痕もなか〳〵鮮かに、その參詣した趣意を記し――千里の途を遠しとせずして此處に來り父儀太夫、老母明生大姉の冥福を祈る――と書きつけた文字が讀まれるのであります。これは私の發見ではない、一昨年友人の遲塚麗水君が參りまして、始めてこの文字を見出し、驚き喜んで世に傳へたのであります。卽ち日本の人がその當時此處に往來をして居つたといふことが分るのであります。それから德川三代家光の時代に、大通辭の島野兼了といふ人が、祇園精舍を究めるために印度へ向つた。ところがこのカンボヂヤを印度であると心得、且つアンコール●ヴァットを祇園精舍であると誤解して、その見取圖をすつかり書いて歸つたといふ說がある。今水戶の彰考館にその見取圖が保存されてあります。私は見ませぬから、果してさうであるかどうか分りませぬけれども、その見取圖がアンコール●ヴァットと全然同樣であるといふことなのであります。これは他日專門の學者が研究されたならば面白いことゝ思はれるのであります。此處にアンコール●ヴァットの外に王城の遺跡アンコール●トムといふ王城鎭護の伽藍其他數多き廢墟がありますので、それ等によつてクメール王朝が如何に旺んであつたか、婆羅門の信仰が如何に深かつたかといふことが判るのであります。

遲羅に入る

佛領印度支那を通る間は、沿道に土人の兵隊又は警官のやうな者が立つて居つて、自動車の番號を調べ、或は自動車を停めて私を覗き込むといふ風で、頗る不愉快な重苦しい空氣でした。けれどもアラニヤといふ國境まで行くと、もうそこから遲羅の領土ですから、私は頗るのう〳〵としてほつと息をつきました。このアラニヤから盤谷までは鐵道が通じて居

つて僅か九時間で參ることが出來ます。御承知の如く暹羅からは、先頃皇帝の兄さんが日本に來て居られましたし、一昨年はあちらの貴族の子供から成立つて居るボーイ・スカウトが來ました。又皇族で向うの參謀總長である人や文部大臣である人も來ました。これ等の人々は、何れも日本の文化の進んで居ることに一驚を喫し、日本に對する推服の心持をだんだん深くして、歸國後も頻りに日本に對する好感的宣傳をするといふやうな譯で、日本に對する觀念が段々はつきりして來るのであります。併し未だ日本を知るものはほんの僅かの知識階級のみであると言つて宜いのであります。ところが本年に入つて日本からも二荒伯がボーイ・スカウトを引率して彼地に行かれ、頗る好印象を殘して來られるし、向うからはまた遙々皇帝皇后両陛下の御來遊を見るといふ譯で、日暹の間柄は段々良好に進んで來りました。

暹羅の對外關係

一体暹羅が日本に對して接近せむとするのは何故かといふと、暹羅は十四世紀頃にはカンボヂヤの一部を取り、威勢赫々たるものでありましたが、フランスが印度支那を保護領とするに當つて、暹羅に對して種々の威壓を加へた。そして先々帝（今の皇帝のお父さんに當る方）の時に、フランスはアンコール地方が從來カンボヂヤの領土であつたといふ理由のもとにこれをカンボヂヤに奪還してしまつたばかりでなく、尙ほ機會があれば暹羅の領土を窺窺せむとする野心も無いとは言へない、暹羅皇室の脅威は容易ならぬものであつたのであります。又一方には馬來半島の方から英國の虎視眈々たるものがあるのであります。暹羅は實のところ一日も枕を高くして眠ることが出來ない。ところが先々帝といふ方が非常な名君であつて今でも諸方に銅像などが建つて居ります。丁度日本人が　明治大帝を尊崇し追慕し奉ると同じ心持で、先々帝を追慕して居る次第で、この方が過る年、日本へ渡來せられたことがある。當時は日露戰爭後間もなかりし日本、皇帝の意の那邊に存したかを顧みれば、蓋し思ひ半ばに過ぐるものがあるのであります。ところが當時日本の内情は戰役の創痍尙は深く、又他を顧みるの遑なく、遂に得るところなくしてその一行は歸つたのであります。さうして餘儀なくもドイツに賴つたのであります。當時野心滿々たるカイゼルは、よしきたといふので早速承知をして、すん〳〵ドイツの官吏、技術家等を暹羅に送

つて鐵道を敷設する、總ての文化施設をする、又ドイツの士官を送つて暹羅の軍隊を訓練した。さういふ譯合ひでドイツの勢力は、歐洲大戰前までは非常に深く食ひ込んで居つたのであります。若しもあの歐洲大戰が無かつたならば、或は知らず暹羅がドイツの保護領位になつて居なかつたとは、何人が保證出來ませうか。

標語『暹羅人の暹羅』

然るに歐洲大戰でドイツが失脚すると、これに代つて羽翼を伸ばして來たのが英國であります。現在では暹羅國の重要な官廳の顧問官、其他樞要な場所には、悉く英國人が入込んで押へて居るといふ狀態であります。ところが暹羅の皇族、貴族――暹羅は御承知の如く中間階級といふものがありませぬ。皇族、貴族ならずんば土民であります。その間に何も無い、土民は唯々諾々として皇族、貴族の爲すが儘に從つて居るのであります。この皇族、貴族連中が近來に到つて漸く目覺めて參りました。これはいかぬ、かう英國の勢力が入つて來ては將來どういふことになるか分らぬといふので、暹羅國は暹羅人に依て治めなければならぬといふことをモットーとして叫び來るやうになつたのであります。併し何分弱小の國柄であるから、公然と英國に反抗することは出來ない。それで顧問官の期限が滿つるといふやうな場合には、體よく斷つてしまふといふやうに、何とかして英國の政治的勢力からだん〳〵遁れる工夫を今頻りに致して居ります。

日本に對する信賴

さういふ國情として、そこには自ら日本に對して或程度の信賴の意味が潜んで居る事は否定出來ないのであります。併し日本が今政治的に力を暹羅に注ぐといふやうなことは、固より考へられぬことであり、また考ふべき事でもないでせうが、私はたゞ純然たる經濟的問題に於てのみ暹羅と相結ぶことは頗る賢明なことではないかと思ふのであります。現在三菱系の是松といふ人は大きな米作農場を中央暹羅に持つて居ります。暹羅には乾期と雨期とが非常にはつきりして居ります。半年は全くの雨期であります。その爲に平野の殆んど全土が沼澤の如くに水が氾濫する、詰り雨の爲に地水が滲み出るので

あります。さうして他の半年を通じて乾燥期になると、地面が干割れるまでに乾いてしまふ。主として作つて居るのは米でありますが、こんな譯で米作には可なりの困難が伴ふのであります。尤も土人はなか〳〵巧みに雨乾の両期を利用して耕作を致して居ります。現在米作をやつて居るのは、暹羅全土の十分の一位でありませうが、それでも國内の消費を充して、更に年百三十萬噸位の國外輸出をして居る、所謂暹羅米を出して居るのであります。是松氏の如きも目下孜々として米の試作をやつて居るのであつて、この天候の關係からまだ必ずしも良い結果を得たとは言へぬらしいのですけれども、軈て成功の時代に達するのであらうと思はれるのであります。暹羅の北方にはチーク林が多いのですが、これは殆ど英國人の經營になつて居るので、もう日本人が資本を投じようとしても手を染める餘地はありませぬ。併し馬來の方、南方暹羅の方面は廣漠たる沃野が原始の儘になつて居る、少しも耕されずに存在して居るのであります。錫鑛もある、椰子、護謨などの栽培には最も適して居ります。現在では一エーカーが日本の金にして二十五錢位で喜んで分與されるといふことであります。これも專門家が十分に研究されたならば頗る得る所があるのではないか、私は資本家のこの方面に着目して大に爲すあることを望んで已まないのであります。

飛行機でバタビヤへ

盤谷からシンガポールまでは汽車で二晝夜の行程でありますが、私は一先づピナンで降りました。それからスマトラへ渡つて、此處を一見しましてからピナンへ引返へし、更にシンガポールに向つたのであります。シンガポールから從來は毎金曜日にオランダのケー・ピー・エムの船が出て、日曜にジャワのバタビヤに着くことになつて居つて、それが殆んど唯一の航程でありましたが、先頃から飛行機がシンガポールからバタビヤ、スマラン、スラバヤなどに通ずるやうになりました。これはオランダの成功で、英國はチト出し抜かれた形なのであります。英國でも窃かにさういふ計畫もあつたのですが、オランダは一歩先に、而もシンガポールの英國の軍港の一部を借受けて、其處から七時間でバタビヤに飛び、更にスマラン、スラバヤまで、一日にして達することになつたのであります。非常な便利でして、私らこの飛行機によつて

シンガポール、バタビヤ間を飛んだのであります。序にジャワの方のお話しに移ります。ジャワの交通機關を見ますと、先づこの航空路がバタビヤからスラバヤへ一貫いたしてをる外に鐵道が縱貫して居ります。ところがジャワの道路は非常に良いのであります。オランダ政府は道路には餘程力を注いで居ります。必ずしもオランダ政府の力とばかりは言へないのでありまして、寧ろ農園經營者などの資力を利用するのでありますけれども、兎に角土地を拓かんとすれば先づ道路を完成するといふ政策でやつて居る爲め、道路は文字通り四通八達であります。それが爲に自然自動車が發達するやうになつた。現に日本人で佐藤氏といふ人の如きは、バンドンを中心として東西ジャワに自動車を次々に經營して居つて、なかなかの成功者であります。――近頃は支那人の競爭者が出て來て、値を崩されるので佐藤氏も大分弱つて居りますけれども――そんな具合で自動車は非常な發達で、途切れては居るけれども、殆ど全島を貫いて居るのであります。鐵道にとつては、これが打擊であることはいふまでもなく、餘儀なく短距離の區間を特に値下げして、自動車と競爭をやつて居ります。けれども自動車の經營がだん〳〵進んで來る、數も殖える、從つて鐵道のお客が少くなつて來るので、將來は政府が鐵道の附屬の事業として、自動車をも經營するやうになりはしないかと想像される位であります。世界の趨勢であるといはれるところの自動車の發達、汽車の脅威、その現象が、ジャワに於ても段々濃厚になつて來て居るやうに思はれるのであります。

日蘭親善の擡頭

近來オランダ政府が、その植民地を提げて、日本に接近し來る形勢は、餘程著しいのであります。所謂日蘭親善といふことが盛んに唱へられて來ました。私の到著したのは七月の六日でしたが、その前日に、從來全く中絶して居つた日蘭協會といふものを復活して、日本の領事館で祝宴を張つたといふ次第で、非常に親日熱が旺んなのであります。まことに喜ばしいことであつて、これは實は、たゞ親善といふ美しい言葉で親善それ自身を味はつて置く方が國際的にはよいのであります。なまじいにこれに解釋を加へない方がよいのでありますが、皆さんの前に申上げることが、さして國際的感情の

妨げともならうとは思ひませぬので、單に私の觀察致したところの日蘭親善の由つて來るところを一言申上げて見たいと思ふのであります。それは先づ第一に、日本とこの貿易關係が益々密接になつて來る。雜貨類は勿論、綿糸布――これは從來は英國のマンチエスター●グーズが殆ど全部を占めて居つたのですが、それが半分になり、三分の一になり、現在に於ては日本の綿糸布が九十四、五パーセントまで入つて居ると言つてよい狀態であります。ジャワの土人はサロンといふ腰卷を締め、肩掛のやうな布を掛けます、それは綿布を向うの染料で染めて使ふので、需要がなか〳〵多いのであります。それが九十四、五パーセントまで日本のものになつたといふことは、マンチエスター邊りでは非常な脅威である。そこで英國は大なる資本を投じて、スマトラ邊りに大きな紡績會社を造るといふやうな說も傳はつて居る位であります。これは果して事實なりや否やは分りませぬけれども、向うの新聞に載つて居りました。先頃の英國經濟使節のわが國に參つたことなども、底を割れば日本から支那南洋への綿糸布の輸出問題などがその主要用件であることは、皆さんも十分お認めになることゝ存じます。さういふやうなことから、日蘭貿易即ちジャワ對日本の貿易はいよ〳〵盛んになり、密接になつた。これが所謂日蘭親善といふことの一つの理由でありませう。第二は英國がシンガポールを根據として、ジャワ、スマトラ、ボルネオあたりに、いろ〳〵な方面から頻りに勢力を扶植しようとして居ることであります。オランダはハーフジヤーマンと言はれる位に、その語系でも分るやうに、殆ど獨逸系と言つてよい國であります。歐洲大戰の時に、あのエムデンといふ軍艦が東南洋方面に出沒して、暴威を逞しうしたのは、畢竟ジャワのスマラン、スラバヤ邊りに逃込んで隱れることを、オランダ政府が默認して居つたからであると傳へられて居ります。その位ドイツと親善關係がある。それだけに英國――英國人を嫌ふ觀念は、可なり深いのであります。併し表面には元よりさういふことは出しませぬ。英國とも頗る仲よく交際をして居る。シンガポール總督とジャワの總督との間柄も、惡くはないやうでありますけれども、實は英國の勢力の侵入することを恐れ厭うて居る。殊に英國がシンガポールの軍港を充實するといふことは、オランダにとつては決して氣味のよい話ではないのであります。さういふ點から、オランダが不安から免れやうとする自然の氣持として、日本に接近し、日本と親善にするといふ事實も考へられるのであります。要するに英國とも體裁よく交際して置かう、日

本とも握手しようといふ――所謂両天秤の親善策とも見られる。それが卽ちオランダ流本來の政策で、なか〳〵もつて七分三分の六ケしいところなのであります。

日蘭砂糖競爭

尤も茲に一つ砂糖問題といふのがありますが、この問題の關する限り何うも日蘭親善を裏切るやの虞もある問題であることを考へなければならぬのであります。從來ジャワ糖といふものは、日本へ年々四五十萬噸位は來て居つた。日本はジャワのよい得意であつた。ところが皆さんも御承知の如く、先年ジャワ糖の改良種を窃かに臺灣に持つて來て植えて見たのです。この結果が非常に良くて、現在日本は、殆ど臺灣の砂糖によつて需要を充たして行ける、自給自足が出來るといふ狀態にまで進んだのでして、これはオランダにとつて頗る快からぬことであります――砂糖の洪水とも言はれる位、ジャワには砂糖が餘つて居ります、砂糖會社は土人の勞働者に賃金を拂ふことが出來ない、餘儀なく砂糖の現物でこれを渡す、土人はそれを一錢二錢の小さい包みにして、夜店へ出して賣るといふ有樣であります――それほど砂糖が餘つて居る。これは日本への輸出の殆んど杜絕の狀態にあることも兎に角過剩原因の一つをなして居るのであります。さればオランダ政廳も大に考へて、砂糖種を日本に向けて輸出することを一切禁じてしまひました。かうなると臺灣の方でも實は弱るのです。私、南洋の歸りに臺灣に寄つて砂糖栽培の實況を見て歩きましたが、成程改良種は今は相當な收穫があるが、元來が外から移植したものであるから、臺灣で年を經ればだん〳〵退化する、卽ち生產量が減つて來る。これをどうするかといふことに付ては臺灣の糖業者は目下非常に苦心研究しつゝ、今がのるか、そるかの境目だと言つて居りました。オランダと日本の間にはさういふ利害の相反する問題もありますが、要するに日本と握手し、親善關係を持つといふことは、現在の貿易關係に於ても又た對英國關係に於ても頗る意義のあることなのであります。

南洋における華僑の勢力

もう一つ問題がある。これは對支那人の政策から出發して居るのでありますが、同時にこの問題は、日本に取つても相當考へなければならぬ問題なので、而もそれが蘭領のみに限つたことでなく、南洋全體の問題なのであります。從來、支那の華僑、南洋に羽翼を張つて居る華僑といふものはたゞ單なる商賣人で、經濟的にのみ活動して居つたのであります。各殖民地及び暹羅などの土人は商賣は頗る不得手である。そこへ支那人が商賣的天才を持つて入つて來た。されば商奴でも言ひますか、さういふ風に華僑を見て居つた。殆んど國家といふものを有さない一つの民族が商賣の方面に入つて來て居ることのみ考へて居つたのであります。又支那人自身も、支那國家がどうあらうと、自分達の地位がどうあらうと、そんなことには頓着なく、一意たゞ商賣にのみいそしんで居つたのであります。從つて統治者も別に妨げにもならん、甚だ調法であるといふので、寧ろ華僑の發達を奬勵した傾があつた。それが爲に華僑の勢は著しく、根深く、南洋の各地に植ゑつけられた次第なのであります。前にも記した如く、華僑の本塲は廣東、福建兩省であります。厦門、汕頭、福州邊りから年々何萬人といふ出稼人が出掛ける、厦門邊りに行つて見ますと、皷浪嶼といふ風光絶佳の島、かの芝居である和唐内即ち鄭成功が此處を根據として臺灣に攻め込んだといふ有名な島ですが、その島の殆ど全部が華僑の成功者の造つた別莊で一ぱいになつて居りますほど、それだけ南洋各地には華僑の勢力が扶植され、根强く擴まつて居るのであります。

ところが近來になつて、華僑は支那國家といふことを背景にすることを考へて來ました。それは支那本國、殊に現在の國民政府になりましてから、所謂自主權、利權回收といふやうな問題が著々成功するので、これを見た華僑は、支那といふ國はえらい、おれの本國はえらい、誇るべき國家である、自分達は誇るべき支那國民であるといふ考へを持つやうになつたのであります。彼等は一概にさう思ひあがつたのであります――本國爲政者に對する不滿は前に記した如くでありますけれども。――それで、今までこの殖民地でも土人と同じ待遇、或は土人以下の待遇で甘んじて居つた華僑が、それでは滿足しなくなつた。政治的にも、社會的にも他の文明國民と對等に扱つて貰はなければ承知しないやうな傾向を呈して來たのであります。この傾向はだん〳〵濃厚になつて參るのでありまして――現に斯ういふ問題がありました。暹羅の實例で

ありますが、孫文が失意の時代に、逃れて暹羅に潜伏しようとしたことがあります。暹羅の政府當局は、それは甚だ穩かでないといふので拒絶した、これを暹羅の華僑は非常に含んで居つた。ところがその事件後兩三年を經た頃、暹羅では、普通人頭税一人一年六バーツなのですが、それを支那人に限つて引上げようとしたところが、前に孫文の問題で快からず思つて居つた華僑は、この人頭税問題を口實にして立つた。そして到頭ボイコットをやつたのであります。つまり彼等商店の品物一切暹羅人に賣らぬぞといふ運動なのであります。土民は平素粗衣粗食であるからさして困らないが、一番困つたのは、皇族、貴族であつた。忽ちに食べるものが無いといふ狀態になつて、遂に人頭税問題を取消し、事實上降參した結果となつた。それ程華僑の勢力が深い。經濟的には正しく支那の屬國であると云つてよい位暹羅の經濟的立塲は、華僑の意の儘になるのであります。

華僑の共産主義教唆

この位に勢力を持つて居る華僑が、政治的、社會的に目覺めて來たといふことは、暹羅を始め殖民地政府としてはかなり恐るべき事なのであります。加之支那の共産主義者の侵入といふことが頻繁になつて來た。或は間接に華僑を唆かして共産思想を宣傳する、或は自らやつて來て土人を動かすといふ始末で、各統治者側は容易ならぬ脅威を感じて居るので、これが防遏に苦心して居るのであります。シンガポールの現在の總督は、永らく廣東に居つた人で、非常な支那通として、支那人側は、この人が總督になつた當時は、あゝいふ支那通が總督になつたら、大に我々の權利を伸張することが出來るに違ひないといふ考で、大分いゝ氣持になり、折柄の濟南事件の當時、日本人に對してボイコットをやつたことがありました。ところが總督は、支那人が政治的に目覺めて來たこと、又共産主義者の侵入を厭うて居つた一人でありますから、斷乎として支那人のボイコット手段を禁じ、若しも命令に從はなければ追放するまで嚴命したのであります。支那人は全く意外の感に打たれた。それ以來シンガポール方面では、華僑も柔順に靜かにして居りますけれども、これは一時の現象たるに過ぎませぬ。それから蘭領に於ても、ジャワ人邊りに對する共産思想の鼓吹は凄いもので、左傾的の騷動が頻發す

るのであります。元來ジャワ人といふものは、今こそオランダの統治下にあつて氣力も拔け、文化の程度もズツト退化して居るが、その昔を尋ぬれば、印度の文化を少なからず消化して、一個のジャワ文化なるものを持つて居つたのですから、左傾思想を鼓吹するものがあれば、それに追隨するだけの能力は今でも潜在的に持つて居る。これがオランダにとつては非常に恐ろしいことなのであります。オランダ人はなか〳〵聰明であつて、自己國家の力がどんなものであるかは十分心得てゐる。されば蘭領統治に於ても、まあ〳〵といふ事勿れ主義で、土人を撫でて置くといふ政策を執つて居る。これがオランダ殖民政策のなか〳〵巧妙なところ、此點に於てはフランスは元より英米なども及ばずとするところなのであります。例へば蘭領内に左傾主義の騒ぎが起つても、ただ遠卷きにして居るだけで、決して捕へたり、強いことはしないのであります。それでありますからジャワの都會には、共産主義の學校もあれば、いろ〳〵の左傾的示威運動も、範圍を定めて自由に行ふことが出來るやうになつて居る位、それほど事勿れ主義でやつて居る。それだけにオランダの心中の恐怖は察すべきものがあるのであります。排支の觀念が、やがて親日感を生むの動機たることは疑ふべからざるところでありませう。

瓜哇の混血兒問題

もう一つ、オランダが外の國と事情を異にして困る問題がある、それは混血兒の問題であります。何しろ赤道直下の熱帶であるから、蘭人にしろ土人にしろ晝間十二時から三時、四時頃までは昏々として眠り、夜になつて始めて活動を始める、殊に婦人の裸體姿は途上の水浴に見られる狀態であるし、殊にスンダ美人と稱して、スンダ族の女は非常に美人である、南洋特有の眼、それは非常にチャーミングで美しい、さういふ人種の棲息して居るジャワであります。人口は殆ど世界第一と言はれる位に稠密な所であります。その居住者の生活は勢ひ淫蕩ならざるを得ないではないでせうか、そこで、オランダ人と土人との混血兒が非常に多い、無論英領には英國人と土人との混血兒、フランス領にはフランス人と土人との混血兒も出來る譯でありますが、殊に蘭領ジャワに至つてはそれが頗る多いのであります。この混血兒ですが、志ある

土人はこれを相手にしない、オランダ人の間にあつても、これを蔑視して相手にしない、蘭人土人その何れからも疎外され排斥されるのが混血兒であります。その數は恐らく將來も段々增加して來るのでありませう。この混血兒が社會的に容れられないといふ僻見、不平から勢ひ左傾思想に趨く、これを支那の共産主義者が狙つて居るのです。又實際混血兒には左傾思想を持つて居る者が多いのであります。オランダ政府は何とかしてこれを右の方へ持つて行きたいといふので、役所や會社で頻りに雇ひ込みます。それから四千ギルダーの金を持つて居る者には、七十五エーカーの土地を與へる、その四千ギルダーで住宅を造れ、收穫までの費用は一切政府で貸付けようといふ約束でジャワ山岳地帶をこれに充てゝ混血兒を農村に導かうとして居ります。これは一部成功して居りますけれども、政府から借りられるだけ金を借りて、逃げ出してしまふ者もないではなく、必ずしも百パーセントの成功と言へないのであります。蘭領には兎に角さういふ混血兒問題といふ特別の事情があるのであります。以上のやうな對支那人事情、いづこの國も同じ不安から、どうしても支那人の政治的進出、社會的進出、その運動に對してこれを抑壓し、兼ねて共産主義的思想を擊退しなければならぬといふので、現在各殖民地總督の間に往復がかなり頻繁になつて來て居ります。暹羅の皇帝が一昨年態々ジャワに行つて總督に會見した。更に佛領印度支那總督がジャワに行つた。又シンガポールの總督も近くジャワを訪問することになつてゐる。さうして何れも表面は遊覽といふことになつて居りますけれども、實は南洋各地協力して聯盟——といふ程名分の明らかなものではないまでも、一つの協定の上に前申上げたやうな對支那人の難關を切り拔けようと致して居るのであります。併し果してさういふことが出來るかどうか、假に支那人の口を押へ、手を押ふる事が出來ても、滔々として土着民の間に彌漫しつゝある左傾思想の大勢を抑へ得るかどうかは問題でありませう。兎に角これ等の問題は、今各殖民地共通の惱みとなつて居るのであります。

日本商人歡迎

その結果として、例へばジャワなどに於ては、今や日本の商人が非常に好感を持つて迎へられて居ります。無論これは

前述の思想問題等を別にしましても、支那の華僑が段々圖に乘つて甚だ横暴である、甚だ不德義である。長年取引をして居つても、少し自分の方に不利な商取引になると、早速破產を發表してしまふ。さうして翌日はその隣で知らぬ顏をして商賣を始めるといふやうな、極めて不信の行爲が多い爲、オランダ人は華僑に愛想をつかして、出來得るだけ日本人に代らせたいといふ考へになつて居ります。一體日本人は出稼商人として、何處へ行つても、成功者とは言へないのでありますが、ジャワに行くと人意を强くします。田舍の各地を歩いて見ても、日本の雜貨商が段々多くなりつゝある、そして支那の商人より餘程信用がある、洵に喜ばしい現象であります。この場合日本人は、思切つて向うへ入り込んで行つたら宜からうと思ふ。雜貨商を開かうと思へば、小資本で宜しい、田舍へ行かうとするなれば僅かの金を用意すれば宜いのであります。さうして次第次第に、華僑に取つて代ると云ふことは、日本の海外發展の上に於て非常に必要なことであると思ふのであります。

勞働者は過剩

皆さんのやうな方は無論そんなお考へは有つて居られぬのでありますけれども、多くの日本人はまだ南洋といへば南米と同じやうに考へて居る。勞働者、農民などが出稼ぎの出來る土地であるかのやうに考へて居る者もないではないやうであります。併し事實は勞働力が餘つて居る、土人の勞働力、支那人の勞働力が餘つて居る。土人の男が一日五十錢とすれば、支那人は一圓、それで支那人は甘んじて働いて居る。事新しく申すまでもないが支那人は實に驚くべき忍耐力を有し土人と一緒に炎熱の間を裸足で平氣で歩いて居る。日本人にはそれが出來ない。氣候の關係からも、日本人は向うで勞働することは不可能である。それにジャワは人口の稠密なところであります。ランダ政府もジャワ人を捌くのに困つて居る位、そこに契約勞働といふことも行はれて居ります。それはスマトラやボルネオの農園にジャワ人を出稼ぎさせるのであります。園主――邦人園主も無論それに均霑出來るので、つまり農園主は先づ契約料として百ギルダーを出す、外にジャワからスマトラならスマトラまで來る渡航費を拂ふ、そして一人の勞働者を抱へる、それが契約勞働であります。

この契約勞働に服した者は、總ての自由を農園主に持たれて了ふ。自分で仕事の種類を選ぶといふやうなことも出來ない。例へば護謨を搾れと命ぜられた場合に、いや自分は護謨の製造の方に廻りたいといふやうなことは許されないのであります。强ひて勞働の種類を選ばうとすれば牢屋へ入れられる、それから護謨を切る際切り損つて、二分切るのを三分切つたといふことになると、これも牢屋に入れられる。全く昔の奴隷制度と變らないものであります。尤も農園主の方も、これに對して義務を負ふ。給料は男が日給四十二錢、女三十七錢といふのが初めの定めで、三年を一期として、第二期には男女とも五錢づつ日給を增さなければならない。それに五年目になれば家を建て、やらなければならず、子供の爲めには園内に學校を設けなければならず且つ農園内で賣る品物は、市價の最低價格を以て賣らなければならぬといふやうな、農園主の方にも義務があるけれども、矢張り一つの農奴に過ぎないのであります。國際聯盟などでも問題になつて、人道上面白くないといふ非難がありますので、早晩この契約勞働の制度は止められるでありませうけれども、兎に角勞働力は餘つて居るのでありますから、日本から勞働力を輸入したところで何にもならぬ。どうしても資本を投じて資本主の立場に立たなければならぬのであります。田舍で雜貨商をやつて、華僑に取つて代ると云ふことなら小資本で宜しい。併し農園の方は大きな資本を以つてかゝらなければ成功覺束ないのであります。近來英領馬來邊には、小資本の日本の農園主も現はれて來まして、僅に五十エーカーの土地を持つて護謨を造つて居る者がありますが、護謨の低落の爲に、コストが賣價と同じで、利益が無いと言つて居ります。借金がなければ何うやらやれるけれども小資本の悲しさには、何れも多少の借金を負うて居るので、その利子が拂へない。銀行から借りて居るものはまだよいとして、苦しまぎれに印度のチッテ族といふ高利貸專門の種族から金を借りる。年三、四割もする高い利子を拂つて、辛うじて經營して居る次第で現在のやうな護謨の相場がつゞけば、迚もやつて行けぬ、みす〳〵折角の農園をチッテに取られるより仕方がないといふ狀態になつて、小農園は苦しみに苦しんで居るのであります。護謨の一番需要の多いのは米國である。殆ど八十パーセントまでは米國で消費する。その米國では一年に約六十萬噸近く使ふさうですが、既に一年分だけのストックが今アメリカにあるばかりでなく、近來は米國自身、古護謨復製の方法をも行ふやうになつたので、今後値の下ることはあつても上ることは先づ

期待出來ない。さうすれば折角向うで築き上げた日本人の小農園といふものは、全く潰滅に歸する哀れな狀態にあるのでございます。斯ういふ事情も考への中に入れて置かなければならぬ。卽ちどうしても大きな資本で持久的に取かゝらなければ駄目なのであります。大きな資本家が大きな農園を持つてこれを小資本家に區切つて賣るなり、貸すなりして經營するといふことにでもすれば、先づ小資本家も立瀨があるといふものです。

資本家よ南洋へ

近時三井、三菱なども南洋に興味を持つて進出するやうになつて來ました。スマトラには三菱の東山農事といふ大農園がある。三井がボルネオに持つて居る石油坑の如きはなか〳〵豐富な石油坑で、これはオランダが大分後悔して居る位、餘程產出量が多いらしい。斯の如く日本の大きい資本家が進出することは、日本の爲に良いことだらうと思ふのであります。

私はスラバヤからケー・ピー・エムの船でバリーといふ島へ渡りました。其處はスラバヤを夕方出ると翌朝着く極く小さい島でありますが、印度敎が兎に角完全に遺存されて居るのは先づ此處だけでありませう。この島には印度敎の信仰から來たところの繪畫、彫刻が發達して居ります。殊に木彫の如きは可なりグロテスクなものではあるが、侮ることの出來ない一種の藝術味を有つて居るので、近來各國の學者や藝術家がこれを認めるやうになつて參りまして、アメリカ邊からも大分行くやうであります。此處には面白い宗敎上奇習や裝飾が澤山ありますが、之は略して置きます。尙ほ南洋各地に於ける政治的、經濟的の詳しい事情については、他日記述する機會を得たいと存じて居ります。

東亞調査會決議（第一號）

近年極東の形勢は、これを過去數年に比し、漸次平靜を加へつゝありと雖も、ひとり隣邦支那にありては、政局の紛爭、人心の動搖歸する所を知らず。單に同國の產業興隆を見ざるのみならず、關係列國また通商貿易の伸張に依る共存共榮の慶福を享くるを得ざる狀態なり。この不安たるや、決して一國の不安たるに止らず、極東全體の不安なり。特に、同國內の軍閥が互に武力を以て權勢を爭ひ、國內の動亂止む時なきが如きは、同國政府が曩に不戰條約に加盟したる精神に背馳す。われ等は、支那政府並に國民が、速に平和統一、經濟建設の途に進まんことを熱烈に希望するものなり。東亞調査會は右支那の現狀に鑑み、極東の平和、福祉のため、內外に向つて、先づ左記諸項を提唱し、これが實現を期す。

第一　支那動亂時における水陸交通確保の件

近年支那における頻々たる動亂に伴ひ、支那人は勿論、在支外國人の蒙る損害鮮少にあらず。これが絕滅を期し、支那產業貿易の發達を計るためには水陸交通の安全を確保するを以て最も有効なる政策なりと信ず。依つて本會は內外當局者に向ひ、動亂時における水陸交通の確保に對し、適切なる具體案を樹つることを勸說するものなり。

第二　治外法權撤廢に關する件

支那多年の希望たる治外法權撤廢に對しては、主義としてこれに贊同するものなるも、支那當局が單獨の意思を以て、卽時これが撤廢を行はんと計畫するに對しては、同國現在の狀況に鑑み、未だ妥當ならざる所ありと認むるを以て、支那政府が國際信義に基き、漸進的解決の途に進まんことを要望し、これを內外に高唱してその實現を期す。

第三　支那の排外排貨に關する件

支那の排外排貨は、經濟問題の範圍を超えて、政治的に繼續せられつゝあるため、外國商工業者及び在支外國企業家は勿

論、支那商工業者もまた不斷の脅威と損害を蒙りつゝあり、從來これに對する方策は、各方面において考究せられ來りしも、未だ徹底的對策の樹立を見ず、依つて本會は、日支両國の經濟的關係の重大なるに鑑み、速に徹底的解決の途に進むべき必要あることを、内外に提唱するものなり。

東亞調査會決議（第二號）

露領に於ける日本漁業に關する件

ソヴエイト政府は最近「極東漁業十年計畫」を樹て、その國營機關によりて邦人漁業家を露領より排除せんとする傾向あり。この間に在りて、わが當業者は相互の競爭と内訌を事とし、漸次露國のために、その既得の地位を奪はれんとし、今やわが露領漁業は非常なる危機に立てり。

本會はこの形勢に鑑み、政府並に當業者が、事業の安全を保障しおよびその發展を期するため、必要なる積極的施設に出でんことを勸說するものなり。

昭和五年二月八日

東亞調査會規程

第一條　本社内に東亞調査會を置く

第二條　東亞調査會は東方亞細亞諸國に於ける日本と利害緊密なる各般の問題を調査研究し、必要に應じてその結果を公表し、東亞に關する知識の普及を圖る外或は本會と趣旨を同じくする個人若くは團體に對し適切なる協調援助を與へ、或は當局に建議し、或は輿論を喚起し、以てその効果を擧ぐることを目的とす

第三條　本會の主張と行動とは、大阪毎日新聞、東京日日新聞、英文大阪毎日及東京日日とは關係なきものとす

第四條　本會は本部を大阪に置く

第五條　本會に左の役員を置く

會長	一名
理事長	一名
專任理事	二名
理事	若干名
主事	二名
顧問	十名以内
評議員	廿五名以内

第六條　會長は會務を總理し、理事長は會長を輔佐し、必要の際は會長の事務を代行す

會長は本社長、理事長は本社重役之に當る

第七條　專任理事は會長の指揮を受け會務處理の實行に當る

專任理事は會長之を指名す

主事は專任理事を輔佐す

第八條　理事會は理事を以て組織、本會各般の事項を審議す

第九條　理事は大阪毎日新聞及び東京日日新聞の左記職務に在るもの及び會長より特に指名せられたるものとす

東亞通信部長及び副部長

外國通信部長及び副部長

政治部長

經濟部長及び副部長

事業部長及び助役

外國課長、事業課長

上海、大連各支局長

南京、北平、天津、奉天、ハルビン、漢口、香港、モスコー各通信部主任

第十條　顧問及び評議員は會長より推薦し、將來缺員ある場合には評議員會の決議を以て補充す

第十一條　顧問及び評議員は本會の重要事項につきて會長の商議に參與し必要に應じて集議す

第十二條　特殊の事項を審議裁定するため顧問會議を開くことあるべし其規定は別に之を定む

第十三條　本會の經費は大阪毎日新聞より支出す

東亞調査會顧問會議規程

第一條　東亞調査會顧問會議は同會顧問並に會長及び理事長を以て組織す

第二條　顧問會議に總裁、副總裁各一名を置く總裁及び副總裁は顧問の互選を以て之を定む

第三條　顧問會議は會長の請求又は總裁の發意に依り之を開く

第四條　顧問會議は特殊の事項を審議裁定し且機密に亘る事項を議定す

第五條　顧問會議に於ては總裁議長となり議事を掌る、總裁故障ある時は副總裁之を代行す

第六條　顧問會議の議事並に決議は之を記錄し其認定に從ひ之を公表することあるべし

第七條　顧問會議の記錄の作成保管並に庶務は專任理事之を掌る

東亞調査會顧問及役員

顧問

伯爵　清浦奎吾
子爵　齋藤實
伯爵　内田康哉
陸軍大將　宇垣一成
男爵　林權助
公爵　近衛文麿
侯爵　細川護立
貴族院議員　德富猪一郎
貴族院議員　井上準之助

役員

會長　大谷光瑞

理事長　大阪毎日新聞社長　本山彦一

專任理事　大阪毎日新聞編輯主幹　城戸元亮
東京日日新聞編輯總務　岡崎鴻吉
大阪毎日新聞編輯顧問　楢崎觀一

理事　大阪毎日新聞社顧問　法學博士　農學博士　新渡戸稻造
大阪毎日新聞社顧問　竹越與三郎
同　副主幹兼外國通信部長　河野三通士
同　社友　小村俊三郎
同　東亞通信部長　稲原勝次
同　經濟部長　布施勝治
同　東京日日新聞副主幹兼政治部長　下田將美
同　整理部長　西村公明
同　經濟部長　平川清風
大阪毎日新聞事業部長理學博士　杉山幹
同　庶務部長　西村眞琴
同　神戸支局長　山田潤二
同　東亞通信部副部長　名村寅雄
同　　村田孜郎
同　外國通信部副部長　黑田乙吉
同　　福田吉藏
同　經濟部副部長　鈴木三郎
同　東京日日新聞外國課長　佐藤善郎
同　經濟部副部長　高田元三郎
同　事業課長　西野入愛一
大阪毎日新聞事業部助役　三俣淺治郎
同　上海支局長　羽野秀介
同　大連支局長　世川憲次郎
同　北平通信部主任　石村誠一
同　天津通信部主任　伊東恭雄
同　南京通信部主任　松本鎗吉
同　奉天通信部主任　澤村幸夫
同ハルビン通信部主任　引田哲一郎
同　漢口通信部主任　吉岡文六
　　三池亥佐夫
　　小林英生
　　足利緝

同モスコー通信部主任　馬場秀夫

評議員（イロハ順）

文學博士　櫟木幹雄
服部宇之吉
貴族院議員陸軍中將　阪西利八郎
大阪毎日新聞社副社長
法學博士　岡實
同　編輯總務　奥村信太郎
川上俊彦
法學博士　高柳松一郎
大阪毎日新聞社
專務取締役　高木利太
同　主筆　高石眞五郎
海軍中將　中里重次
文學博士　内藤虎次郎
衆議院議員　武藤山治
村田省藏
貴族院議員　内田嘉吉

大阪毎日新聞囑託　上田恭輔
文學博士　矢野仁一
大阪毎日新聞社取締役　松内則信
貴族院議員男爵　藤村義朗
貴族院議員男爵　船越光之丞
福本元之助
阿部房次郎
喜多又藏
大阪毎日新聞編輯主幹　城戸元亮
東亞同文會理事長　白岩龍平

主事

大阪毎日新聞社客員　丸山幹治
東京日日新聞外國課員　長岡克曉

囑託

在東京　古閑次郎
在間島龍井村　日高丙子郎
在北平　今關壽麿

昭和六年四月二十日印刷
昭和六年四月廿五日發行

發行編輯人　大阪府豐能郡箕面村字平尾四九番地　荒木利一郎

印刷人　大阪市西區阿波座中通一丁目三番地　荻野伊太郎

發行所　大阪市北區堂島上二丁目三十六番地　大阪毎日新聞社内　東亞調査會

終